

高崎市文化財調査報告書第 326 集

倉賀野上樋越遺跡

—倉賀野駅北区画整理事業に伴う発掘調査—

2014

高崎市教育委員会

序

高崎市は、北西に榛名山、北東に赤城山、西に妙義山などの上毛三山を望む群馬県の南西部に位置しております。平成18年から21年にかけて、周辺の6町村と合併を行い、人口37万5千人を擁する都市となり、平成23年4月には中核市へ移行しました。これを受けて、高崎市はさらなる発展とよりよい町づくりのために、交通網の整備や土地区画整理事業などを行っています。

本書で報告する倉賀野上樋越遺跡は、倉賀野駅北土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査であり、平成22年度に調査を実施いたしました。その調査の結果、主に平安時代の集落跡や、生活のために利用したと思われる水路などが発見されました。これによって古代の倉賀野地域に生きた人々の活動の様子が明らかになるとともに、今後の調査研究のための重要な資料を得ることができました。

最後になりましたが、発掘調査報告書の刊行にあたりご協力・ご指導をいただきました関係諸機関ならびに地元関係者の皆様に心から感謝を申し上げますとともに、発掘調査や整理作業に従事した作業員の方々の労をねぎらい、序といたします。

平成26年 3月

高崎市教育委員会
教育長 飯野 眞幸

例言

1. 本書は、倉賀野駅北土地区画整理事業に伴って平成22年度および平成23年度に実施した、倉賀野上樋越遺跡の発掘調査報告書である。
2. 本遺跡の所在地は、高崎市倉賀野町字上樋越1771他であり、発掘調査面積は2295㎡である。
3. 発掘調査および整理は、高崎市教育委員会文化財保護課が行った。
4. 本遺跡は、高崎市遺跡番号「486・502」に該当する。
5. 調査組織は次のとおりである。
平成22年度：(事務局) 田口一郎 須田奈保子 山田いづみ
(調査・整理担当) 大野義人
平成23年度：(事務局) 田口一郎 須田奈保子 山田いづみ
(調査・整理担当) 大野義人 岡崎裕子
平成25年度：(事務局) 田口一郎 神澤久幸 山田いづみ
(整理担当) 大野義人
6. 発掘調査期間は、平成22年9月7日～平成23年2月14日、平成23年11月28日～12月27日である。
7. 整理作業期間は、平成23年2月16日～3月25日、平成25年9月1日～平成26年3月31日である。
8. 本書の執筆・編集は大野が行った。
9. 遺物整理・実測は整理作業員および大野が行った。
10. 図面トレース作業にはイラストレーターCSを使用し、整理作業員および大野が行った。遺物図面トレース作業は(株)シン技術コンサルに委託し、一部を整理作業員が行った。
11. 遺構の写真撮影は大野・岡崎が行った。遺物の写真撮影は(株)シン技術コンサルに委託した。
13. 本事業に際し、発掘調査における表土の掘削・埋填を株式会社井ノ上が行った。また、基準点測量を株式会社横田調査設計に、遺構平面図作成業務(一部)および空中写真撮影を株式会社測研に委託した。
14. 本遺跡の出土遺物・記録類は高崎市教育委員会文化財保護課で保管している。

凡例

- ・本書に使用した地図は、高崎市都市計画図(1/2500)、および国土交通省国土地理院発行の1/25,000の地形図「高崎」である。
- ・本書中に使用した方位は座標北を示し、座標系は世界測地系に基づく平面直角座標第Ⅱ系を使用している。
- ・土層および遺物の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修「新版標準土色帖」を使用した。
- ・本報告書で用いた縮尺は原則として以下のとおりである。例外については各図版のスケールを参照されたい。
調査区全体図：1/100 および1/200、遺構図：1/60、遺物図：1/3
- ・遺構観察表に用いた単位はmであり、()で示した数値は残存部の法量である。
- ・遺物観察表に用いた単位はcmであり、()で示した数値は残存部の法量である。
- ・本書で使用した火山灰の略称については、以下のとおりである。
As-A：浅間A軽石(1783年(天明3年)の浅間山噴火に由来)
As-B：浅間B軽石(1108年(天仁元年)の浅間山噴火に由来)

目次

序

例言・凡例

目次・挿図目次・表目次

第1章 調査に至る経緯	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 試掘調査の成果	1
第2章 遺跡の立地と環境	1
第1節 遺跡の立地・地理的環境	1
第2節 周辺の遺跡・歴史的環境	1
第3節 周辺遺跡の過年度調査成果	3
第3章 調査の方法	6
第1節 調査区の設定	6
第2節 遺構の調査方法・記録方法	6
第3節 発掘調査の工程（日誌抄）	6
第4章 発掘調査の記録	8
第1節 遺跡の概要	8
第2節 基本層序	8
第3節 遺構と遺物	8
(1) A区の調査成果	8
(2) B区第1遺構確認面の調査成果	26
(3) B区第2遺構確認面の調査成果	37
第5章 成果と問題点	48

写真図版

抄録・奥付

挿図目次

第1図 倉賀野上樋越遺跡周辺遺跡	2
第2図 倉賀野上樋越遺跡調査区配置図	3
第3図 倉賀野上樋越遺跡全体図・基本層序	7
第4図 A区全体図	9
第5図 1号竪穴住居跡平面図・断面図・出土遺物	12
第6図 2号竪穴住居跡平面図・断面図・出土遺物	13
第7図 4号竪穴住居跡平面図・断面図	14
第8図 4号竪穴住居跡出土遺物①	15

第9図	4号竪穴住居跡出土遺物②	16
第10図	5号竪穴住居跡平面図・断面図・出土遺物	17
第11図	1・2号溝平面図・断面図・出土遺物	18
第12図	3～6号溝平面図・断面図	19
第13図	14～19号溝平面図・断面図・出土遺物	20
第14図	21～23号溝・12～15号土坑平面図	21
第15図	21～23号溝断面図・出土遺物	22
第16図	24号溝平面図・断面図・出土遺物	23
第17図	1号井戸・18号土坑・2号不明遺構	24
第18図	A区出土遺物	25
第19図	B区第1面全体図	27
第20図	25～36号溝平面図・断面図・出土遺物	29
第21図	37～40号溝・19号土坑平面図・断面図	30
第22図	41～45号溝平面図・断面図・出土遺物	32
第23図	46～51号溝平面図・断面図	33
第24図	52・53号溝平面図・B区第1面出土遺物	34
第25図	B区第2面全体図	35
第26図	54～58号溝・3号不明遺構平面図	38
第27図	54・56～60号溝・3号不明遺構平面図・断面図・出土遺物	39
第28図	61・62号溝・4号不明遺構平面図・断面図	40
第29図	63～66号溝平面図・断面図	41
第30図	67～72号溝平面図	42
第31図	67～72号溝断面図・B区第2面出土遺物	43
第32図	周辺遺跡遺構分布状況	49
第33図	B降下以前の溝分布状況	50

表目次

第1表	倉賀野上樋越遺跡周辺遺跡一覧表①	4
第2表	倉賀野上樋越遺跡周辺遺跡一覧表②	5
第3表	検出遺構(溝)一覧表①	44
第4表	検出遺構(溝)一覧表②	45
第5表	検出遺構(土坑・井戸・不明遺構)一覧表	45
第6表	出土遺物観察表①	46
第7表	出土遺物観察表②	47

第1章 調査に至る経緯

第1節 調査に至る経緯

本発掘調査は、倉賀野駅北土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査である。平成22年度に高崎市都市整備部区画整理2課より事業地内の埋蔵文化財包蔵地照会があったため、文化財保護課は周知の埋蔵文化財包蔵地に該当する旨を伝達した。区画整理2課からの試掘調査の申し込みを受けて、文化財保護課は工事計画のある道路予定地を対象とした試掘調査を行い、平安時代に該当する複数の遺構の存在を確認した。この試掘結果をもとに文化財保護課と区画整理2課で埋蔵文化財の保存協議を行ったが、工事計画の変更は困難であり、記録保存のための発掘調査を実施することとなった。

第2節 試掘調査の成果

工事予定地のうち、現況水路の南側では地山面の直上付近まで削平されているため遺構の残存状況は良好ではないが、堅穴住居跡と思われる掘り込みと平安時代の須恵器・土師器片が出土した。これに対し現況水路の北側では、A s - B 一次堆積層がわずかに残存していることと、A s - B 降下以降の滞りが複数確認できた。現況水路を挟んで遺構の残存状況および性格が異なるが、いずれにせよ道路予定地の全域に遺跡が及んでいると判断するに至った。

第2章 遺跡の立地と環境

第1節 遺跡の立地・地理的環境

倉賀野上樋越遺跡は、関東平野の北端部にあたるいわゆる高崎台地上に立地しており、標高は約84mである。この台地は榛名山の南東側に位置しており、北西から南東にかけて緩やかに傾斜し、榛名山麓部湧水地帯などを水源とする多数の河川が南東流している。榛名山南麓部には、榛名山の火山活動によって形成された相馬ヶ原扇状地や白川扇状地が広がり、標高120m付近で南方の高崎台地へと接続する。

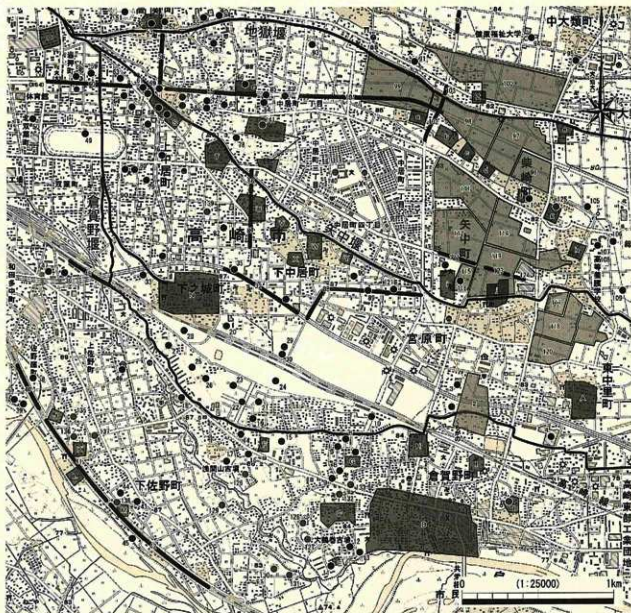
高崎台地上には先述の通り多数の河川が存在しており、榛名山と赤城山の間に利根川が南東流し、それ以西には井野川・烏川・碓氷川などの主要河川が同じく南東流している。井野川は榛名山南麓を水源とし、段丘と谷底平野から成る低地帯を形成しながら南東流する。その南方を流れる烏川は、浅間隠山などを水源とし、碓氷川・鍋川などと合流しながら埼玉県との県境付近で利根川へと流れ着く。本遺跡は、この井野川と烏川の間に形成されている低地部に立地している。

調査対象地内には長野堰からの流れをくむ水路が開削されており、調査区の西において調査対象地を分断するものと南方へ流下するものとに分岐している。今回の調査ではこの水路の北側と南側で遺構の様相が異なることが明らかとなっており、微高地と低地の境界に沿うように水路が流れていると考えられる。

第2節 周辺の遺跡・歴史的環境

本遺跡の近辺では旧石器時代～縄文時代の明確な遺構・遺物の発見例はないが、本遺跡の南西にあたる烏川左岸エリアにおいて下佐野Ⅰ・Ⅱ地区(41・42)、倉賀野万福寺Ⅰ・Ⅱ遺跡(11・12)などで縄文時代の遺構が確認されている。しかしながら続く弥生時代になると本遺跡周辺では集落の存在が認められず、やや北東の上中居町・高岡町周辺の微高地周辺に確認できる程度である。高崎競馬場遺跡(49)、高岡堰村遺跡(52)、などで弥生時代中期～後期の遺物や住居跡などが確認されており、高岡堰村遺跡では弥生時代中期の環濠が確認されている。

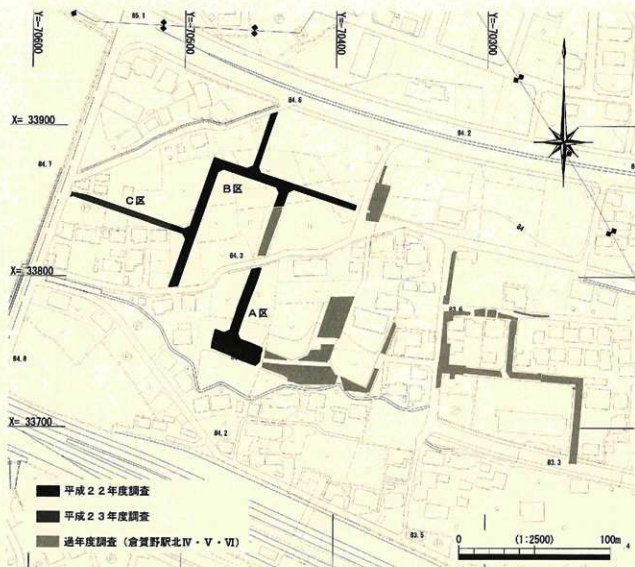
古墳時代になっても近接エリアでの遺構分布状況は希薄であるが、周辺域では飛躍的に遺跡数が増加し、特に5世紀になると烏川左岸段丘上に大規模な古墳群(倉賀野古墳群)が形成される。その主墳とされる浅間山



第1図 倉賀野上樋越遺跡周辺遺跡

古墳(126)を中心として、大鶴巻古墳(127)・小鶴巻古墳(128)などの大型前方後円墳が築造されている。集落域もやはり烏川左岸段丘上であり、下佐野遺跡Ⅰ・Ⅱ地区や倉賀野西上正六遺跡(18)、倉賀野万福寺遺跡などで検出されており、7世紀頃まで活動の痕跡がみられる。本遺跡の近辺では倉賀野中里前遺跡で古墳時代の住居跡が確認されている程度である。

本遺跡周辺で遺跡数が増加するのは平安時代からである。本遺跡の他に倉賀野中里前遺跡、倉賀野駅北遺跡(2)、倉賀野条里Ⅳ・Ⅴ遺跡(8・9)などで集落が確認されている。また、これらの集落が営まれる微高地の北側と南側ではB水田が検出されており、南側では下之城エリアにまで至る広大な水田経営が行われていたことが明らかとなっている。しかしながら、これらの水田に対応する時期の集落跡は現在のところ近隣地域では確認されていない。また、これらB下水田の調査ではしばしば大畦畔が検出されており、これらが古代の条里制地割に則って構築されていることが確認されている(下之城村前Ⅲ(21)、下之城村前遺跡7(24)、下之城沖仲3・4(27・28)など)。さらにB下水田で確認された畦畔の下層から同位置・同方向の溝が検出される例もあり(下之城村前7)、条里制地割がB下水田の経営以前から導入されていたことを示している。



第2図 倉賀野上樋越遺跡調査区配置図

中世になると、和田氏・倉賀野氏などの氏族が台頭し、本遺跡周辺にも多数の城館が築かれる。本遺跡の南には応永年間(1394～1427年)に倉賀野城(B)が、北西には永禄5～6(1562～1563)年頃に和田城の支城である和田下之城(N)がそれぞれ築城されたが、いずれも天正18(1590)年の小田原城落城に伴って廃城することとなった。本遺跡や倉賀野駅北遺跡でも中世の溝が確認されており、特に倉賀野駅北遺跡では瓦が多量に出土する溝が検出されており、当地域の中世遺構の展開を考える上で注視すべきものである。

第3節 周辺遺跡の過年度調査成果

本遺跡周辺では、倉賀野駅北土地区画整理事業に伴う発掘調査として倉賀野駅北Ⅰ～Ⅵ次調査が行われ、報告書が刊行されている。今回の調査区に特に近接するのは駅北Ⅳの9区、駅北Ⅴの1～6区、駅北Ⅵの1区である。いずれの調査区でも主体となるのは平安時代以降の溝となっているが、駅北Ⅳの6区・駅北Ⅴの6区では竅穴住居跡も確認されており、微高地を選定して集落を形成していると思われる。これらの集落が連続しているのか、点在しているのかという点については今後とも検証が必要である。

前節で触れたが、集落が分布しているのは現況水路の南側が中心であり、以北は多数の溝が検出される。おそらく水路の南側に微高地、北側に低地が形成されていると思われ、地形に応じた開発が行われていたようである。また、国道17号線より北側の過年度調査では瓦を多量に出土する溝や掘立柱建物跡が分布している。

第1表 倉賀野上樋越遺跡周辺遺跡一覧表①

No.	遺跡名	主な遺跡	No.	遺跡名	主な遺跡
1	倉賀野上樋越遺跡(本遺跡)	奈良平安・住居・土坑・中庭・井戸・炊事・土坑・A地埋坑	47	新田中遺跡	平安・日本田
2	倉賀野北遺跡	平安・住居・井戸・日本田・溝・平安以降・井戸・溝・火葬場・中庭・溝・近郊・土	48	坂町1遺跡	古墳・住居・溝・平安・日本田・近郊・溝・土
3	倉賀野下野中遺跡	平安・日本田・近郊・溝	49	高崎馬場遺跡	遺跡なし
4	倉賀野中里前遺跡	古墳・奈良平安・住居・中庭・火葬場	50	北沢岡遺跡	平安・日本田・中庭・溝・土
5	倉賀野赤土遺跡	平安・日本田・中庭・溝・井戸・溝・作庭	51	高岡岡遺跡	古墳・平安・住居・溝・火葬・井戸・平安・住居・日本田・中庭・溝・溝・井戸
6	倉賀野赤土2遺跡	平安・日本田・溝・土坑・近郊・A水田	52	高岡岡2遺跡	赤土・溝・中庭・溝・土
7	倉賀野赤土3遺跡	平安・日本田・溝・中庭・堀・竪穴・竪穴	53	高岡岡3遺跡2	高岡岡・溝・土坑・奈良平安・住居・近郊・溝・土
8	倉賀野赤土4遺跡	平安・住居・溝・土坑	54	高岡岡4遺跡	平安・日本田
9	倉賀野赤土5遺跡	平安・住居・溝・土坑・遺溝・溝	55	高岡岡5遺跡	平安・日本田・溝
10	倉賀野赤土6遺跡	平安・日本田・瓦葺・溝・土坑	56	高岡岡6遺跡	奈良・住居・古墳・住居・溝・溝・溝・溝・奈良平安・住居・溝・平安・日本田・中庭・溝・奈良・井戸・溝・土
11	倉賀野方野中遺跡	縄文・住居・古墳・住居・古墳・方野岡遺跡・土坑・溝・中庭・溝・土坑・溝・溝	57	岡久保遺跡	平安・日本田
12	倉賀野方野中2遺跡	縄文・住居・古墳・住居・古墳・遺溝・溝・溝・中庭・溝・竪穴・火葬場・土坑・溝・土	58	菅野1遺跡	平安・日本田・中庭・溝
13	倉賀野宮之前遺跡	古墳・古墳・同溝・溝・住居	59	菅野2遺跡	平安・日本田
14	倉賀野下野中1遺跡	奈良平安・溝	60	菅野3遺跡	平安・日本田・溝・中庭・溝・堀・溝
15	倉賀野下野中2遺跡	古墳・日本田	61	上中野早延遺跡	平安・遺溝・井戸・溝・土坑・土坑
16	倉賀野上正上6遺跡	古墳・古墳岡地石	62	上中野早延2遺跡	古墳・日本田
17	倉賀野上正上6遺跡(2次)	古墳・古墳岡地	63	上中野早延3遺跡	平安以降・溝
18	倉賀野上正上6遺跡	古墳・住居・奈良・土坑・溝・中庭・竪穴・溝・土坑・溝	64	上中野早延4遺跡	平安・日本田・中庭・ベッド
19	下之城村南遺跡	平安・日本田	65	上中野遺跡群	縄文・土坑・古墳・住居・堀・溝・溝・奈良平安・井戸・木田・中庭・溝・井戸
20	下之城村南2遺跡	平安・日本田	66	上中野西田遺跡2次	古墳・土坑・中庭・溝・土坑
21	下之城村南3遺跡	平安・日本田・溝・中庭・溝・土坑・ビツ上	67	上中野西田遺跡2次2	平安・日本田・井戸・平安・遺溝・堀・溝
22	下之城村南4遺跡	古墳・住居・溝・平安・日本田・中庭・堀・溝・遺溝・溝	68	上中野北条遺跡	中庭・溝・近郊遺溝・井戸・土坑
23	下之城村南5遺跡	古墳・住居・平安・日本田・中庭・溝	69	上中野北条2遺跡	古墳・住居・方野岡遺跡・溝・中庭・溝・堀・井戸・土坑
24	下之城村南6遺跡	平安・日本田・溝・中庭・溝・土坑	70	上中野北条3遺跡4次	古墳・住居・土坑・平安・住居
25	下之城村南7遺跡	奈良・平安・住居・日本田・中庭・溝	71	上中野北条3遺跡5次	古墳・溝・土坑・平安・溝・堀・溝・溝・井戸・A地埋溝・溝
26	下之城村南8遺跡	平安・日本田・溝・溝・土坑	72	上中野北条3遺跡6次	古墳・住居・堀・穴・遺溝・溝
27	下之城村南9遺跡	古墳・平安・溝・日本田・中庭・溝	73	上中野北条3遺跡7次	古墳・住居・溝・近郊代・溝
28	下之城村南10遺跡	平安・日本田・古墳・溝・土坑	74	上中野西原遺跡	平安・日本田・溝
29	下之城村南11遺跡	奈良平安・溝・日本田・近郊・A地埋坑	75	上中野西原2遺跡	中庭・溝・井戸・土坑
30	下之城村南12遺跡	平安・日本田・溝	76	上中野西原3遺跡	平安・日本田・平安以降・溝
31	下之城村南13遺跡	平安・日本田・溝・中庭・溝・土坑	77	上中野西原4遺跡	古墳・土坑・奈良平安・溝・中庭・溝・溝
32	下之城北条遺跡	平安・木田・溝・中庭・溝	78	上中野宇衣宮遺跡	古墳・溝・奈良・土坑
33	下之城村西遺跡	中庭・溝	79	上中野宮神1遺跡	平安・日本田・中庭・溝
34	下之城村北遺跡	古墳・同溝・奈良平安・土坑・遺溝・溝	80	上中野宮神2遺跡	平安・日本田
35	下之城村北2遺跡	平安・日本田・近郊・A地埋坑	81	上中野宮神3遺跡3次	平安・日本田・中庭・溝・遺溝・溝
36	上野野越遺跡	平安・日本田・遺溝・土坑	82	上野野越2遺跡	平安・日本田・平安以降・土坑
37	上野野越2遺跡	古墳・住居・古墳・平安・住居・中庭・井戸	83	中野野一丁目遺跡	古墳・住居・堀・溝・平安・住居・溝
38	上野野越3遺跡	古墳・住居・平安・住居・井戸	84	中野野一丁目遺跡2	古墳・住居・堀・穴・溝・溝・平安・土坑・溝・溝・木田
39	上野野越4遺跡	古墳・古墳・住居・平安・住居	85	中野野一丁目遺跡3	縄文・住居・古墳・溝・古墳・平安・溝
40	船形遺跡	古墳・住居・古墳・小石塚・平安・住居・舟形・舟形	86	上野野岡遺跡(1-4次)	古墳・溝・中庭・溝・井戸・溝・遺溝・溝・井戸・溝
41	下野野遺跡1地区・寺野地区	縄文・住居・古墳・住居・古墳・古墳・石塚・平安・住居・中庭・溝・堀・溝	87	下野野天神遺跡1・2	平安・日本田・溝・中庭・溝・井戸・溝
42	下野野遺跡2地区	縄文・住居・古墳・住居・方野岡遺跡・平安・住居・中庭・井戸・溝・溝・溝・溝	88	下野野3遺跡	古墳・住居・井戸・溝・C水田・平安・住居・井戸・日本田・中庭・溝・遺溝・井戸・溝
43	下野野一本木遺跡	奈良平安・住居・中庭・井戸	89	下野野4遺跡	中庭・木田・遺溝・溝
44	下野野一本木遺跡2	奈良平安・住居・石塚遺溝	90	下野野5遺跡	縄文・住居・古墳・住居・奈良・土坑・平安・溝・溝・日本田・中庭・溝
45	下野野長谷岡遺跡	古墳・住居・土坑・古墳・平安・溝・平安・ビツ上・中庭・火葬場・土坑	91	下野野6遺跡	遺溝なし
46	下野野長谷岡2遺跡	平安・日本田	92	下野野7遺跡	縄文・古墳・住居・奈良平安・住居

第2表 倉賀野上極越遺跡周辺遺跡一覽表②

No.	遺跡名	主な遺構	調査年	No.	遺跡名	主な遺構
93	南大畑野原遺跡	平安・日水田・溝	調査年 2000 第 80 集	136	鎌山古墳	
94	中人畑田遺跡	平安・日水田 近井・A城・溝	調査年 2000 第 81 集	137	坂王古墳	非史 1990 資料編 1 原始古代 1
95	中人畑倉遺跡	平安・住居・井戸	調査年 1989 第 15 集	138	長者屋敷天王山古墳	非史 1990 資料編 1 原始古代 1
96	安岡遺跡群 (I)	平安・日水田・水路	非史 1984 第 49 集	139	越後守古墳	墳丘: 東方長円 (100~) 主体: 不明 時期: 5 c 後半
97	安岡遺跡群 (II)	平安・日水田・水路	非史 1985 第 52 集	140	念仏塚古墳	
98	安岡遺跡群 (III)	平安・日水田	非史 1986 第 57 集	141	稲原塚古墳	
99	安岡遺跡群 (IV)	平安・日水田・水路	非史 1987 第 59 集	A	東中聖域	時期: 16 c 築造: 太田氏か
100	安岡遺跡群 (V)	古墳・住居 倉賀野・住居	非史 1989 第 92 集	B	倉賀野城	時期: 不明 築造: 倉賀野氏
101	安岡遺跡群 (VI)	古墳・溝 倉賀野・住居・溝・日水田 中世築	非史 1993 第 126 集	C	倉賀野西城	時期: 不明 築造: 倉賀野氏か
102	西條・吹手西遺跡	古墳・方間墓 平安・住居 中世築・堀	非史 1991 第 113 集	D	倉賀野東城	時期: 16 c 築造: 不明
103	安岡遺跡群 (VII)	古墳・方間墓 倉賀野・住居	非史 1992 第 116 集	E	宮之森遺跡	時期: 不明 築造: 不明
104	安岡遺跡群 (VIII)	溝・土・土城 古墳・土城 中世・溝・井戸 遺構・溝・井戸	調査年 1990 第 16 集	F	倉賀野前築敷	時期: 不明 築造: 不明
105	安岡遺跡群 (IX)	古墳・溝	調査年 1990 第 38 集	G	上極野前築敷	時期: 不明 築造: 不明
106	安岡遺跡群 (X)	古墳・平安・溝 平安・住居・井戸 遺 構・土城	調査年 1990 第 38 集	H	水島寺の塔	時期: 16 c 築造: 不明
107	安岡遺跡群 (XI)	古墳・自然成跡 平安・住居・溝 中世 築・溝 土城・A城	非史 1998 第 253 集	I	長藤寺	時期: 不明か 築造: 不明
108	安岡遺跡群 (XII)	平安・住居 中世築・土城・溝 / A城	非史 2011 第 513 集	J	長野神社	時期: 不明か 築造: 不明
109	安岡遺跡群 (XIII)	平安・日水田・溝・土城	調査年 1990 第 38 集	K	福口稲敷	時期: 不明 築造: 堀川氏
110	安岡遺跡群 (XIV)	平安・溝 中世・水田・溝	非史 2012 第 298 集	L	清水稲敷	時期: 不明 築造: 不明
111	矢中村上南遺跡	平安・日水田・溝 平安以降・溝	非史 1983 第 35 集	M	夕日長野神社	時期: 不明 築造: 不明
112	矢中村上北遺跡	平安・日水田・溝 平安以降・溝 中世 築・溝	非史 1983 第 40 集	N	相下之成	時期: 永祿五年~六 (1562~1563) 頃 築造: 堀田氏
113	矢中寺宮西遺跡	平安・住居・日水田 中世築・溝・井戸	非史 1983 第 43 集	O	岡田稲敷	時期: 不明か 築造: 岡田氏
114	安岡遺跡群 (XV)	平安・住居・井戸・墓石・日水田	非史 1984 第 52 集	P	高岡稲敷	時期: 不明 築造: 岡田氏
115	矢中村上北遺跡	平安・日水田	非史 1984 第 52 集	Q	丸尾稲敷	時期: 不明 築造: 丸尾氏
116	矢中村上北遺跡	中世・堀・溝	調査年 1983 第 3 集	R	宇治堂稲敷遺跡	時期: 16 c 築造: 堀川氏
117	矢中村上北遺跡	古墳・堀・溝 平安・日水田	非史 1984 第 57 集	S	反町城	時期: 不明 築造: 反町氏
118	矢中村上北遺跡	古墳・堀・溝 平安・日水田	非史 1985 第 60 集	T	新堀の塔	時期: 不明 築造: 不明
119	安岡遺跡群 (XVI)	古墳・古溝 平安・日水田 中世築・溝・ 土城・堀・井戸・溝	非史 1986 第 67 集	U	下中塚前築敷	時期: 16 c 築造: 新井氏
120	矢中村上北遺跡	古墳・堀・溝 平安・日水田 中世・遺跡	非史 1988 第 82 集	V	高尾稲敷	時期: 不明 築造: 高尾氏か
121	矢中村上北遺跡	平安・日水田	調査年 1986 第 44 集	W	下中塚倉庫遺跡	時期: 16 c 築造: 倉賀野氏
122	矢中村上北遺跡	倉賀野・住居・日水田 中世築・溝・ 井戸	非史 2001 第 173 集	X	下中塚稲田屋敷	時期: 16 c 築造: 堀田氏
123	矢中村上北遺跡	惣兵衛・平安・日水田 中世築・溝	非史 2001 第 173 集	Y	道場稲敷	
124	矢中村上北遺跡	古墳・溝 平安・日水田	非史 2001 第 173 集	Z	平人稲敷	時期: 天文年間 築造: 平人氏
125	安岡遺跡群 (XVII)	墳丘: 円 (12) 主体: 粘土盛土 時期: 4 c 後半	非史 1999 資料編 1 原始古代 1	a	安岡西築敷	時期: 不明 築造: 高井氏か
126	安岡遺跡群 (XVIII)	墳丘: 前方長円 (17.5) 主体: 築穴盛 土 時期: 4 c 後半~5 c 初	非史 1999 資料編 1 原始古代 1	b	高井稲敷	時期: 16 c 築造: 高井氏
127	安岡遺跡群 (XIX)	墳丘: 前方長円 (23) 主体: 築穴盛土 時期: 4 c 後半~5 c 初	非史 1999 資料編 1 原始古代 1	c	安岡稲田屋敷	時期: 15 c 文明六年 (1474) 築造: 保元氏
128	安岡遺跡群 (XX)	墳丘: 前方長円 (87.5) 主体: 厚形石 時期: 5 c 後半	非史 1999 資料編 1 原始古代 1	d	光明寺	時期: 不明 築造: 不明
129	安岡遺跡群 (XXI)	墳丘: 円 (45) 主体: 粘土盛土		e	大畑古墳	時期: 不明 築造: 不明
130	大山古墳			f	村岡稲敷	時期: 不明 築造: 不明
131	新田古墳			g	新田稲敷	時期: 不明 築造: 不明
132	一本杉古墳	墳丘: 円 (25) 主体: 築穴式石室 時 期: 7 c 中~	非史 1999 資料編 1 原始古代 1	h	下大塚稲敷	時期: 16 c 築造: 堀川氏
133	安岡遺跡群 (XXII)	墳丘: 円 (20) 主体: 積石式石室 時 期: 7 c 末	非史 1999 資料編 1 原始古代 1	i	堀原・矢中稲敷	時期: 16 c 築造: 堀原内記・矢中新 高門
134	長野寺田古墳			j	下村北稲敷	時期: 16 c 築造: 大沢氏・松本氏
135	藤倉古墳					非史 1986 第 67 集

第3章 調査の方法

第1節 調査区の設定

今回の発掘調査では、倉賀野駅北土地区画整理事業地内の道路工事予定箇所を対象として発掘調査を行った。調査対象地が広域であったため、安全管理と遺構保全の観点から調査区全体を3区画に分割して順次調査を行うこととした。調査区は既存道路南側をA区、北側の南半分をB区、北半分をC区とし、A区から順次発掘調査を行った。なお、平成23年度調査箇所のうちB区に隣接する調査区をD区として取り扱っている。ただし本報告書内では、報告順序が煩雑になるのを避け、遺構の連続性を理解しやすくするためB～D区を一括してB区と表記することとした。

第2節 遺構の調査方法・記録方法

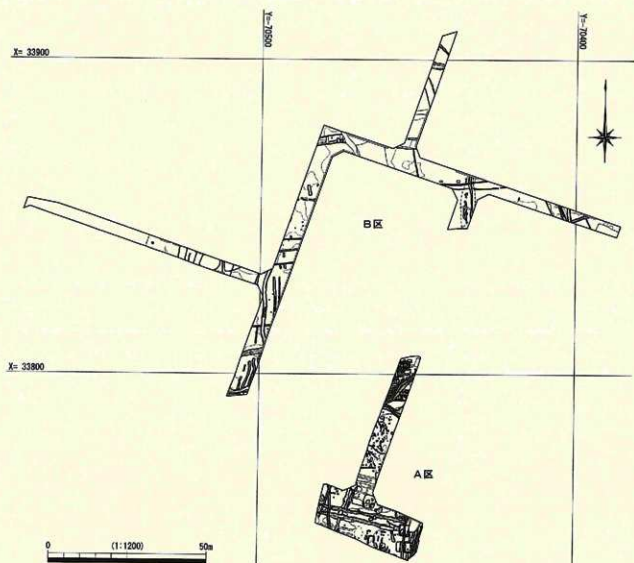
発掘調査においては、遺構確認前までは重機を用いて表土除去作業をおこない、その後人力による掘削作業に移行した。なお、B～D区においては遺構確認面が2面確認されたため、第1遺構確認面の調査終了後に再度重機を用いて第2遺構確認面の検出作業を行った。発掘調査の各段階における写真記録作業には35mmモノクロ・カラーリバーサルフィルムおよびデジタルカメラを使用し、光波測距儀やオートレベルを使用して平面図・断面図ならびに遺物出土状況の記録図作成を行った。なお、調査最終段階では6×6版フィルムによる航空写真撮影を実施した。調査終了後は重機による埋め戻し作業を行った。

本報告書における遺構番号の一部については調査時のものと異っており、これらについての新旧対照は第3～5表の遺構一覧表を参照されたい。

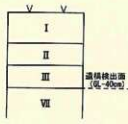
第3節 発掘調査の工程（日誌抄）

平成22年度

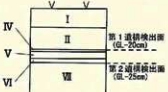
9月7日	A区表土除去作業開始	1月19日	C区第2遺構確認面検出作業開始
9月13日	遺構掘削開始	1月21日	遺構掘削開始
10月7日	竪穴住居跡の掘削開始	2月3日	C区第2遺構確認面空中写真撮影
10月21日	B区表土除去作業開始	2月4日	C区第2遺構確認面遺構測量
10月27日	A区空中写真撮影・遺構測量	2月7日	C区埋戻し作業開始
11月9日	B区遺構掘削・As-B除去開始	2月14日	C区埋戻し作業終了→調査完了
11月16日	サブレンチ掘削により第2遺構確認面の存在を確認。		
11月18日	B区空中写真撮影・遺構測量		
11月19日	A区の一部をグリッド掘削、4号竪穴住居跡を確認。	平成23年度	
11月24日	B区第2遺構確認面検出作業開始	1月28日	D区表土除去作業開始
12月10日	B区第2遺構確認面の遺構測量	12月6日	D区遺構掘削開始
12月13日	B区埋戻し作業開始	12月14日	D区第2遺構確認面検出開始
12月15日	B区埋戻し作業終了、C区表土除去作業開始。	12月15日	D区第2遺構確認面遺構掘削開始
12月21日	C区As-B除去開始	12月22日	D区第2遺構確認面空中写真撮影
12月22日	A区埋戻し作業開始	12月26日	D区埋戻し作業開始
12月27日	A区埋戻し作業終了	12月27日	D区埋戻し作業終了→調査完了
1月12日	大哇峠の痕跡と思われる面を確認		
1月17日	C区空中写真撮影・遺構測量		



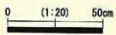
A区
L=84.000m



B区



L=83.000m



- I 表土
- II A s-A 混土層
灰黄褐色土 (10YR 6/2)
しまりやや弱く、粘性弱い。
A s-A 粒多量。
- III A s-B 混土層
灰黄褐色土 (10YR 5/2)
しまり・粘性弱い。灰色土の混入多量。
- IV A s-B 一次堆積層
相灰色土 10YR 4/1
しまり・粘性なし。最下に大粒の
A s-B 粒少。
- V 黑色粘質土層
黒褐色土 (10YR 3/1)
しまり・粘性強い。
- VI 灰色粘質土層
灰黄褐色土 (10YR 6/2)
しまりやや強く、粘性弱い。褐色粒多量。
- VII 地山土層
相灰色土 (10YR 6/1)
しまりやや強く、粘性弱い。
部分的に酸化。砂粒多量。

第3図 倉賀野上桶越遺跡全体図・基本層序

第4章 発掘調査の記録

第1節 遺跡の概要

倉賀野上種越遺跡では、主に奈良・平安時代に該当する竪穴住居跡5軒、奈良・平安時代～中近世に該当する溝72条、土坑20基が検出された。その分布状況は調査区によって明確に異なっており、A区では竪穴住居跡群が、B区では溝群が検出されている。溝についてはほとんどがA s - B降下直前あるいは降下以前のものであるが、A s - B降下以降に開削されたと考えられるものもある。このうち中世の遺物が出土する溝についてはA区でのみ確認されており、その近辺では同じく中世に該当すると思われる井戸も検出されている。

第2節 基本層序

本遺跡の基本層序についてみると、A区とB区で堆積状況が異なっている(第3図参照)。A区では表土(I層)およびA s - B混土層(III層)を除去すると黄色地山土層(Ⅷ層)が検出され、それより上位の土層は既に削平されている状況であった。これに対してB区では、ごく薄くではあるがA s - B一次堆積層(IV層)が残存しており、その下に黒色粘質土層(V層)、灰色粘質土層(VI層)の堆積が確認された。黄色地山土層を観察すると、白色・灰色に変色している箇所や砂層と化している箇所が多くみられる。

第3節 遺構と遺物

今回の調査で主体となるのは竪穴住居跡および溝であり、本節ではこれらを中心に記載する。なお、溝・土坑等に関する法量などの詳細なデータは本章末に付しているので参照されたい(第3～5表)。

(1) A区の調査成果

1号竪穴住居跡(第5図)

平面プランは方形を呈し、長辺3.46 m、短辺(残存長)2.15 m、検出面からの深さは8 cm、軸方向はN-8°-Eである。14・15・16号溝に切られており、東壁は残存していない。そのためカマドの有無は不明である。主柱穴は不明である。壁際には壁帯溝がめぐり、付属土坑が1基確認された。明確な貼床は確認できない。出土遺物は須恵器埵・坏、土師器坏・甕などであり、遺構の所属時期は奈良・平安時代と考えられる。また、西に隣接するように方形の掘り込みがみられるが、1号竪穴住居跡との切り合い関係は不明瞭であり、壁帯溝やカマドの痕跡も見られず、単独の竪穴住居跡と判断することができなかった。1号竪穴住居跡と軸方向も幅も同じであることから、拡張あるいは当住居に関連する遺構である可能性も想定しておきたい。この場合、全体の長辺は5 m以上となる。

2号竪穴住居跡(第6図)

平面プランは方形を呈し、長辺3.68 m、短辺3.03 m、検出面からの深さは9 cm、軸方向はN-5°-Eである。14・15号溝、2号不明遺構に切られる。南東部にカマドの痕跡があり、煙道部は15号溝により削平されているが燃焼部の掘り込み中には灰層や多量の炭・焼土粒の混入がみられた。カマドの南側には屋内土坑が設けられている。主柱穴は不明である。壁際には壁帯溝がめぐることが東壁では確認できなかった。明確な貼床は確認できない。出土遺物は須恵器坏・甕、土師器坏・甕などであり、遺構の所属時期は奈良・平安時代と考えられる。

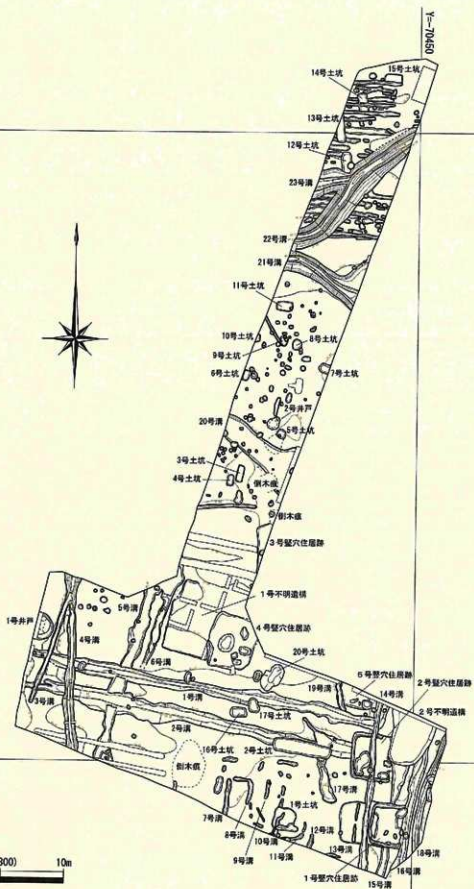
3号竪穴住居跡(第4図)

遺構のほとんどが調査区外であるため詳細は不明だが、平面プランは方形を呈し、一辺3.7 m以上、検出面からの深さは8 cm、軸方向はN-2°-Eである。付属遺構は検出しておらず、明確な貼床は確認できない。出土遺物はなく、遺構の所属時期は不明である。

X=33800

X=33750

0 (1:300) 10m



第4图 A区全体图

4号竪穴住居跡（第7～9図）

平面プランは方形を呈し、長辺4.37m、短辺3.68m、検出面からの深さは24cm、軸方向はN-14°-Eである。カマド・支柱穴は確認できなかった。南西部でのみ壁帯溝と思われる溝状の掘り込みを確認した。貼床は灰色地山土ブロックを含む灰黄褐色粘質土で構成されている。床面では4基の屋内土坑を確認しており、遺物が多量に出土している。出土遺物は須恵器蓋・坏、土師器坏・甕などであり、遺構の所属時期は奈良・平安時代と考えられる。

5号竪穴住居跡（第10図）

Ⅲ層上面に堆積していた漸移層を除去したのちに検出された。遺構の半分が調査区外となっている。平面プランは方形を呈し、一辺2.64m、検出面からの深さは15cm、軸方向はN-22°-Eである。カマドは検出できなかったが、調査区壁際に焼土が確認できたため、東壁にカマドが付随する可能性がある。南壁沿いのみ壁帯溝を確認した。貼床は黄色地山土と黒色土との混土で構成されるが非常に薄く、前面に一定の厚みを持って堆積しているのではない。出土遺物は須恵器蓋・坏・甕、土師器坏・甕などであり、遺構の所属時期は奈良・平安時代と考えられる。なお、屋内土坑1からは高さ35cm以上、胴部最大径32cmの大型の須恵器甕が出土している。

1・2号溝（第11図）

これらの溝は、調査区南部を東西方向に開削されており、ほぼ等間隔で並走している。1号竪穴住居跡、3・4・5・19号溝、2・17号土坑を切り、14号溝とも切り合いが前後関係は不明である。1号溝の走行状況を見ると、14号溝との切り合い部分付近から東へは延びておらず、北方向にほぼ直角に屈曲していると思われる。出土遺物は1号溝から軟質陶器鉢、須恵器平版など、2号溝から軟質陶器鉢が出土しており、遺構の所属時期は両者とも中世と考えられる。

3・4号溝（第12図）

おおむね南北方向に開削されており、3号溝が4号溝を切っている。いずれも1・2号溝に切られる。Ⅲ層（As-B混土層）より下から掘り込まれ、覆土にAs-B軽石粒は含まれない。出土遺物は3号溝では出土せず、4号溝で須恵器・土師器の小片が出土しており、出土遺物および覆土の状況から遺構の所属時期はAs-B降下以前と考えられる。

5・6号溝（第12図）

北東～南西方向に開削されており、並走している。いずれも1・2号溝に切られる。褐灰色粘質土を覆土としており、上層にⅣ層（As-B一次堆積層）が堆積する。出土遺物は土師器坏・甕の小片であり、出土遺物および覆土の状況から遺構の所属時期はAs-B降下以前と考えられる。

7～13号溝（第4図）

調査区南部に開削された細い溝群である。軸方向はいずれも東西南北を意識しているようである。いずれも覆土にAs-B軽石を含まない。出土遺物は10号溝からのみ土師器坏の小片が出土しており、出土遺物および覆土の状況から遺構の所属時期はAs-B降下以前と考えられる。

14～18号溝（第13図）

いずれも南北方向に開削されており、1・2号竪穴住居跡を切る。出土遺物は14号溝から須恵器坏、17号溝から須恵器甕、15号溝から内耳鍋や施軸陶器などが確認されており、遺構の所属時期は不明瞭だが15号溝は中世と考えられる。

19号溝（第13図）

北西～南東方向に開削されている。5号竪穴住居跡を切り、1号溝に切られる。覆土はAs-B混土である。

出土遺物は須恵器小片、土師器坏・甕であり、出土遺物および覆土の状況からAs-B降下以降と考えられる。
20～23号溝（第14・15図）

20・21号溝は北西～南東方向、22号溝は南西～北東方向、23号溝は東西方向に開削されている。切り合い関係は不明だがいずれも覆土の堆積状況は類似している。褐灰色粘質土を基本として下層に灰色粘質土、上層にIV層（As-B一次堆積層）が堆積しており、23号溝では最下層で砂質土層を検出した。出土遺物は20号溝で須恵器・土師器小片、22号溝で須恵器埴、土師器坏、23号溝で須恵器埴などが確認されており、遺構の所属時期はAs-B降下以前と考えられる。

24号溝（第16図）

Ⅲ層上面に堆積していた漸移層を除去したのちに検出された。東西方向に開削されており、西方向へは伸びないようである。覆土にAs-B軽石は含まない。出土遺物は須恵器埴、土師器坏などであり、遺構の所属時期は奈良・平安時代と考えられる。

1号井戸（第17図）

調査区西部で検出され、西半分は調査区外である。断面系は漏斗状を呈する。調査区壁の崩落による隣接地への影響に配慮し、底面までの掘削は行っていない。覆土はAs-A軽石を含む砂質土である。出土遺物は焼締陶器摺鉢などであり、出土遺物および覆土の状況から遺構の所属時期は中世と考えられる。

18号土坑（第17図）

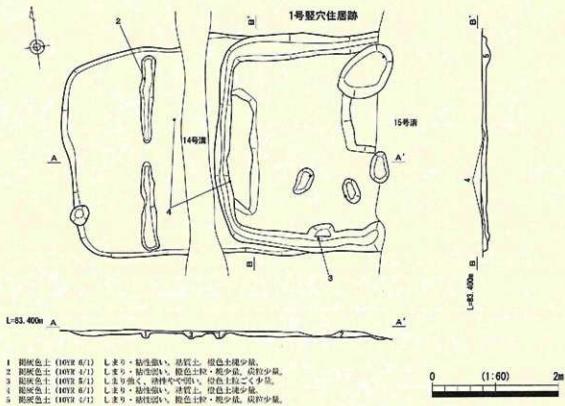
Ⅲ層上面に堆積していた漸移層を除去したのちに検出された。覆土にAs-B軽石は含まない。出土遺物は須恵器坏、土師器甕などであり、出土遺物および覆土の状況から遺構の所属時期は奈良・平安時代と考えられる。

1号不明遺構（第4・18図）

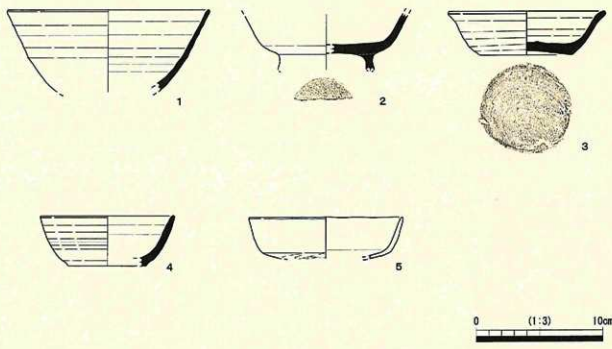
平面プランは方形を呈し、一辺約5.8mの大型の掘り込みである。4号竪穴住居跡を切る。検出時は複数の竪穴住居跡が切り合っていることも想定しながら掘削したが、覆土にAs-Bが混入していることから少なくとも竪穴住居跡群の時期とは異なる遺構であると判断した。貼床・付属遺構なども一切検出されていない。出土遺物は須恵器壺・坏・埴、土師器坏・甕、鉄鎌などであるが、覆土の状況から遺構の所属時期はAs-B軽石降下以降と考えられる。

2号不明遺構（第17図）

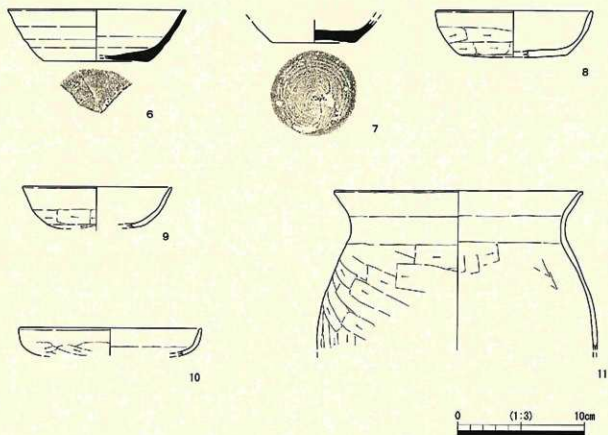
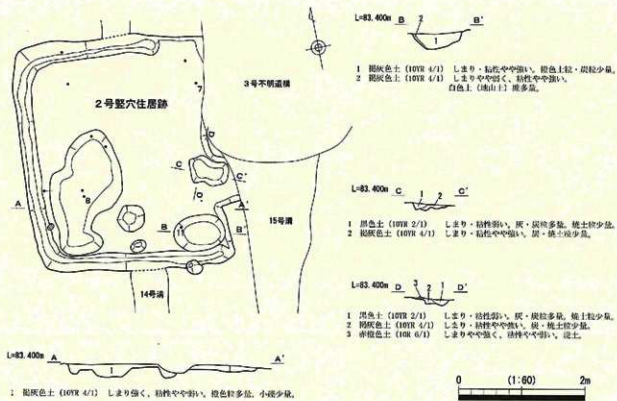
遺構の北部は調査区外となっている。覆土は褐灰色粘質土である。床面からは拳大の礫が多数検出されたが、人為的に配された状況ではない。出土遺物は須恵器甕、土師器坏・甕であり、遺構の所属時期は奈良・平安時代と考えられる。



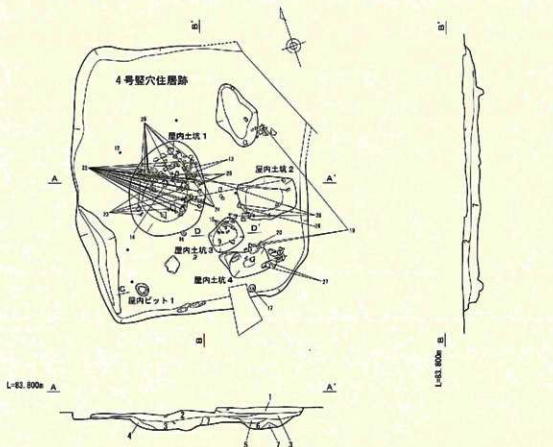
- 1 黒褐色土 (10YR 6/1) しまり・粘性強い、基質土、褐色土粒少量。
- 2 黒褐色土 (10YR 4/1) しまり・粘性強い、褐色土粒・炭少量、炭粒少量。
- 3 黒褐色土 (10YR 3/1) しまり強く、消練や中強い、褐色土粒ごく少量。
- 4 黒褐色土 (10YR 6/1) しまり・粘性強い、基質土、褐色土粒少量。
- 5 黒褐色土 (10YR 7/1) しまり・粘性強い、褐色土粒・炭少量、炭粒少量。



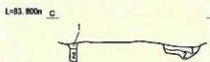
第5図 1号竖穴住居跡平面図・断面図・出土遺物



第6図 2号竪穴住居跡平面図・断面図・出土遺物



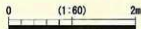
- 1 褐色土 (10YR 4/1) しまり強く、粘性やや強い。棕色粒・炭粒少量。小礫 (φ0.2~0.4cm) 少量。
- 2 褐色土 (10YR 5/1) しまりやや強く、粘性やや強い。褐色粒やや多量。白色粒少量。
- 3 褐色土 (10YR 4/1) しまり・粘性やや強い。灰・粘粒やや少量。小礫少量。
- 4 褐色土 (10YR 4/1) しまりやや強く、粘性やや強い。3層と黄褐色層上の根上。
- 5 二色い黄褐色土 (10YR 6/3) しまり強く、粘性強い。黄土 (層土) 塊多量。
- 6 褐色土 (10YR 5/1) しまり・粘性やや強い。砂粒粒。黄色土 (地山土) 塊少量。
- 7 灰黄褐色 (10YR 6/2) しまり・粘性やや強い。灰色土 (層土) と6層の混り。



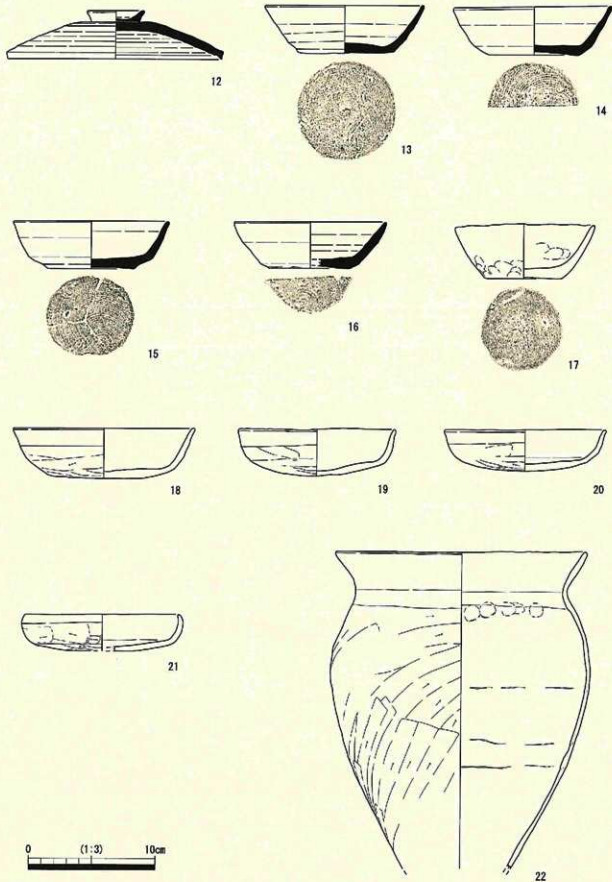
- 1 灰黄褐色土 (10YR 6/2) しまり強く、粘性やや強い。褐色粒やや多量。
- 2 褐色土 (10YR 5/1) しまり強く、粘性やや強い。砂粒少量。



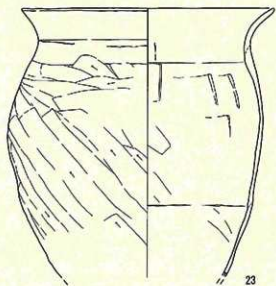
- 1 褐色土 (10YR 5/1) しまり・粘性やや強い。灰・粘土粒多量。
- 2 褐色土 (10YR 4/1) しまり・粘性やや強い。炭粒少量。



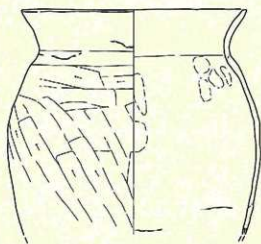
第7図 4号竪穴住居跡平面図・断面図



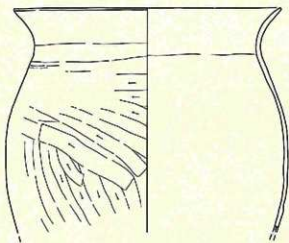
第8圖 4号竪穴住居跡出土遺物①



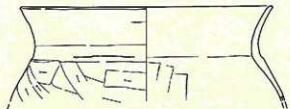
23



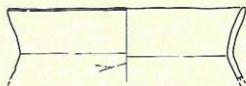
24



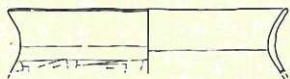
25



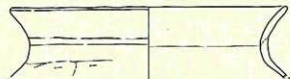
27



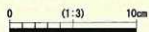
28



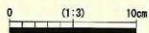
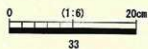
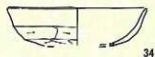
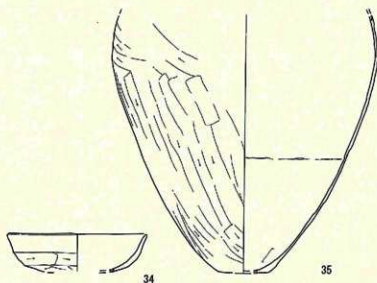
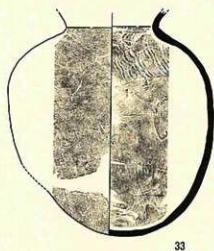
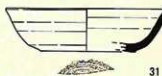
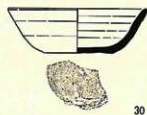
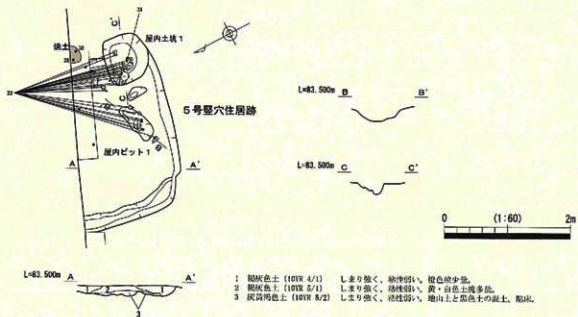
26



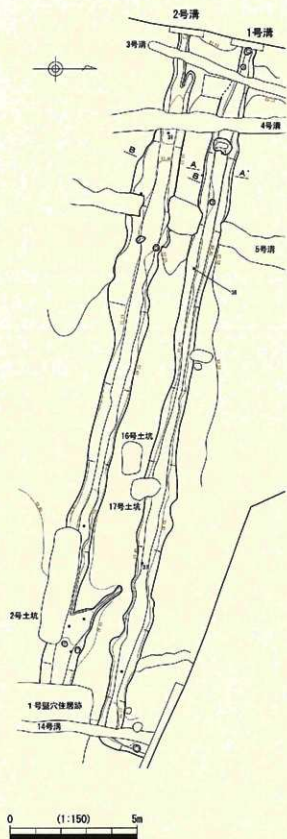
29



第9圖 4号竪穴住居跡出土遺物②



第10図 5号竪穴住居跡平面図・断面図・出土遺物

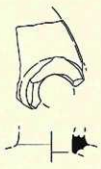
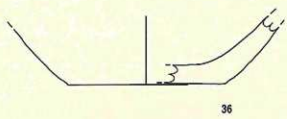
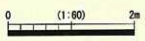


L=83.600m A A'

1 灰褐色土 (10TR 5/2) しまりややぶく、粘性弱い、目録石粒混入あり。

L=83.600m B B'

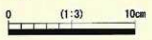
1 褐色土 (10TR 4/3) しまりややぶく、粘性弱い、目録石粒混入あり。
 2 褐色土 (10TR 5/1) しまりややぶく、粘性弱い、目録石粒や中多量。



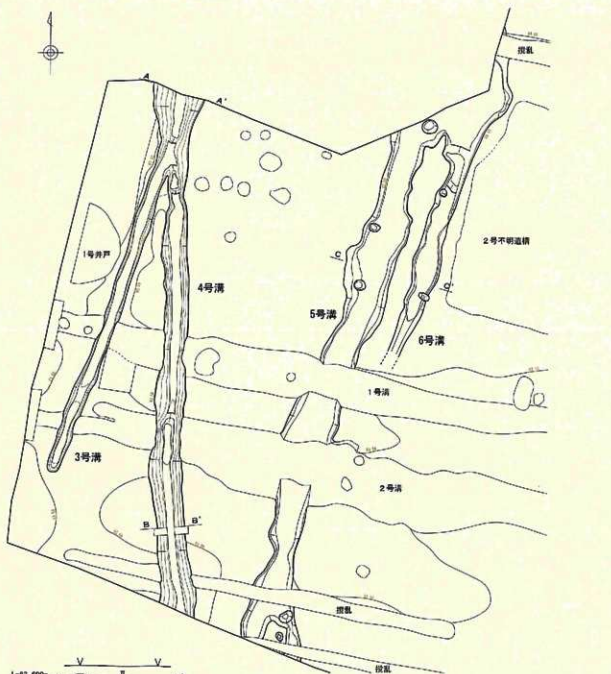
1号溝出土遺物



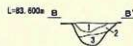
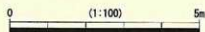
2号溝出土遺物



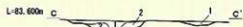
第11図 1・2号溝平面図・断面図・出土遺物



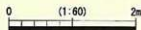
- 1 肥灰色土 (10YR 4/1) しまり・粘性強い、B層石多量、B層土中の粗砂。
- 2 肥灰色土 (10YR 5/1) しまりやや弱く、粘性強い、黄色土塊やや多量、3号溝覆土。
- 3 肥灰色土 (10YR 4/1) しまり強く、粘性やや弱い、棕色土少量。
- 4 灰黄棕色土 (10YR 5/2) しまり強く、粘性やや強い、土的に肥化、白色粒多量。
- 5 肥灰色土 (10YR 4/1) しまり強く、粘性やや強い、棕色土粒やや少量。
- 6 肥灰色土 (10YR 5/1) しまり・粘性強い、褐色土粒やや多量。



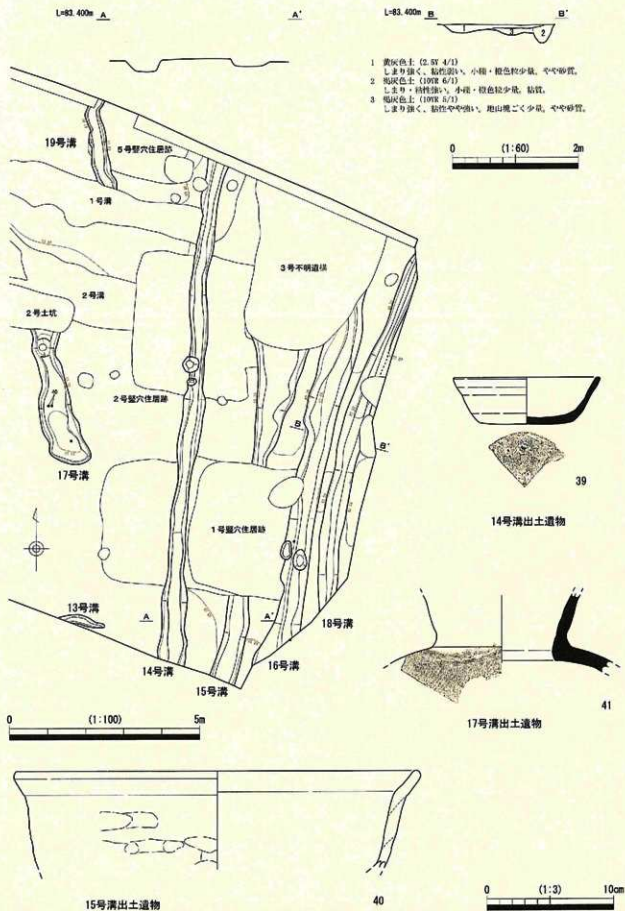
- 1 肥灰色土 (10YR 4/1) しまり強く、粘性強い。
- 2 肥灰色土 (10YR 5/1) しまり強く、粘性強い、褐色土土塊やや多量。
- 3 肥灰色土 (10YR 5/1) しまり強く、粘性やや強い、棕色土粒少量。



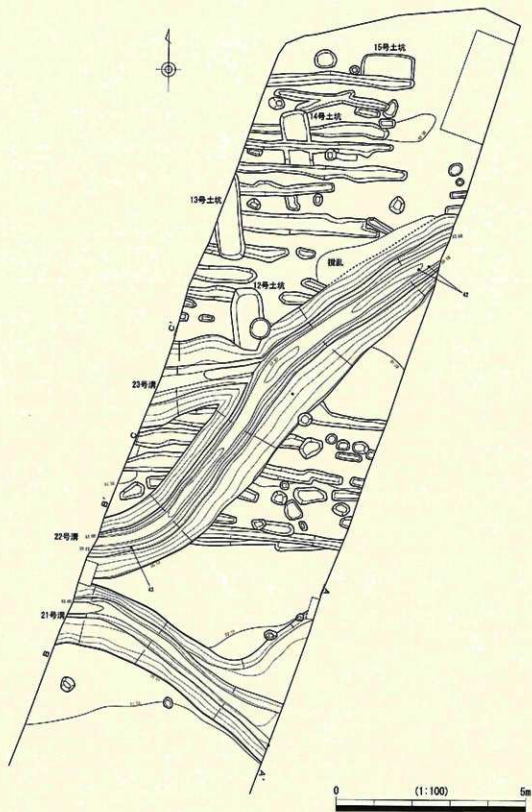
- 1 肥灰色土 (10YR 4/1) しまりやや弱く、粘性強い、粒多量、ローム塊やや多量。
- 2 肥灰色土 (10YR 6/1) しまり・粘性やや強い、炭灰・棕色粒ごく少量。



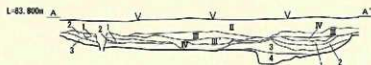
第12図 3～6号溝平面図・断面図



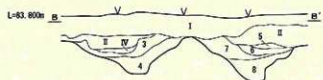
第13図 14～19号溝平面図・断面図・出土遺物



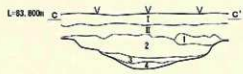
第14图 21~23号溝·12~15号土坑平面图



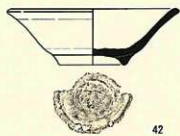
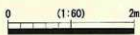
- 1 黒灰色土 (10YR 4/1) しまり・粘性強い、粘質。
- 2 暗灰色土 (5Y3/) しまり・粘性強い、棕色土粒やや多量、粘質。
- 3 黒灰色土 (10YR 6/1) しまり・粘性強い、白色粒少量、斑状の腐化多量、粘質。
- 4 灰色土 (5B/) しまり・粘性強い、黄・白色粒やや少量、粘質。
- 5 暗灰色土 (5Y3/) しまり強く、粘性やや強い、白色粒少量、粘質。
- 6 黒灰色土 (10YR 6/1) しまり・粘性強い、斑状の腐化やや多量、粘質。
- 7 黒灰色土 (10YR 6/1) しまり・粘性強い、斑状の腐化多量、粘質。
- 8 灰色土 (5B/) しまり・粘性強い、腐化部やや多量、白色粒少量、粘質。



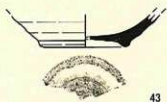
- 1 黒灰色土 (10YR 4/1) しまり・粘性強い、粘質。
- 2 暗灰色土 (5Y3/) しまり・粘性強い、棕色土粒やや多量、粘質。
- 3 黒灰色土 (10YR 6/1) しまり・粘性強い、白色粒少量、斑状の腐化多量、粘質。
- 4 灰色土 (5B/) しまり・粘性強い、黄・白色粒やや少量、粘質。
- 5 暗灰色土 (5Y3/) しまり強く、粘性やや強い、白色粒少量、粘質。
- 6 黒灰色土 (10YR 6/1) しまり・粘性強い、斑状の腐化やや多量、粘質。
- 7 黒灰色土 (10YR 6/1) しまり・粘性強い、斑状の腐化多量、粘質。
- 8 灰色土 (5B/) しまり・粘性強い、腐化部やや多量、白色粒少量、粘質。



- 1 比色・岩屑多量 (10YR 6/3) しまりやや強く、粘性やや強い、白色粒・棕色粒多量。
- 2 黒灰色土 (10YR 4/1) しまり・粘性強い、白色粒多量、斑状の腐化多量、粘質。
- 3 灰色土 (5B/) しまり・粘性強い、斑状の腐化・砂粒多量、粘質。
- 4 黒灰色土 (10YR 6/1) しまりやや弱く、粘性弱い、棕色土粒やや多量、粘質。



42

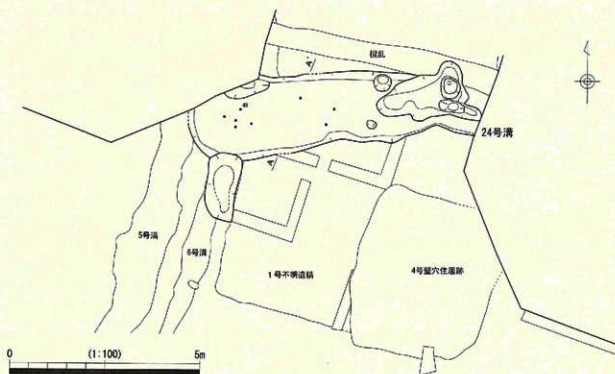


43

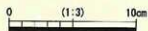
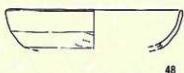
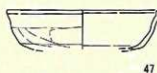
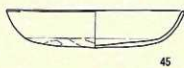
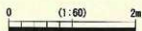
22号清出土遺物



第15図 21～23号清断面図・出土遺物

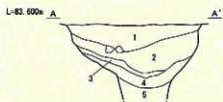
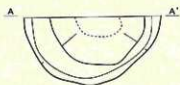


- 1 黒灰色土 (10YR 5/1) しまりややばく、粘りやや強い、黄色灰・硝子少量、物ごく少く。
 2 灰質黒色土 (10YR 5/2) しまり強く、粘りやや強い、土の上段やや多量。



第16図 24号溝平面図・断面図・出土遺物

1号井戸

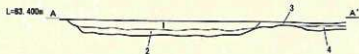
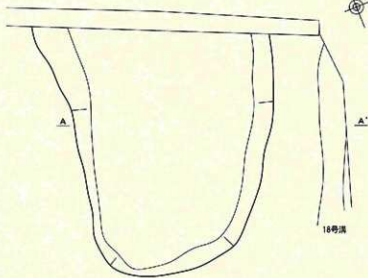


- | | |
|----------------------|------------------------------------|
| 1 灰褐色土 (10YR 4/2) | しまり・粘性やや強い、A層石粒やや多量、草灰の混ごく少量。 |
| 2 褐灰色土 (10YR 5/1) | しまりやや強く、粘性強い、砂質土。灰色土塊多量。 |
| 3 にぶい黄褐色土 (10YR 6/3) | しまりやや強く、粘性やや強い、シルト質。灰色土塊少量、部分的に酸化。 |
| 4 灰色土 (5N/7) | しまり・粘性強い、砂質土。部分的に酸化。 |
| 5 褐灰色土 (10YR 6/1) | しまり・粘性やや強い、砂粒やや少量、大部分が酸化・硬化。 |

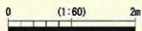
18号土坑



2号不明遺構



- | | |
|-------------------|------------------------------------|
| 1 褐色土 (10YR 5/1) | しまりやや強く、粘性やや強い、褐色砂やや多量、草少量、部分的に酸化。 |
| 2 褐灰色土 (10YR 6/1) | しまり強く、粘性やや強い、褐色粒・小石少量、部分的に酸化。 |
| 3 褐灰色土 (10YR 6/1) | しまり・粘性やや強い、小石・褐色粒ごく少量、部分的に酸化。 |
| 4 褐色土 (10YR 6/1) | しまり・粘性やや強い、褐色粒やや多量。 |



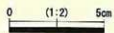
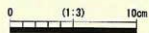
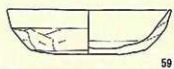
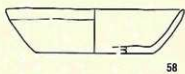
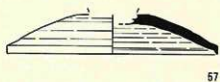
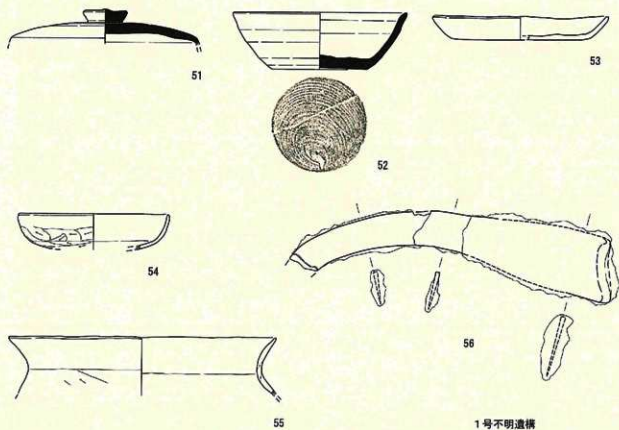
1号井戸



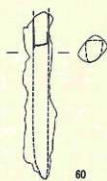
20号土坑



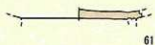
第17図 1号井戸・18号土坑・2号不明遺構



56 · 60



遗物外



搅乱

第18图 A区出土遗物

(2) B区第1遺構確認面の調査成果

先述の通り、B区ではAs-B一次堆積層が薄くではあるがほぼ全的に残存していた。そのため遺構確認面が2面存在しており、第1遺構確認面は基本土層第IV層（As-B一次堆積層）上面である。ただし、調査区全面に残存しているわけではないため、部分的に基本土層第V層（黒色粘質土）上面での遺構検出となっている。

畦畔など水田経営が行われたことを直接示す遺構は検出されていないが、一部As-B一次堆積層が残存していない部分があり、畦畔状の高まりが存在していた可能性を示唆している。

25号溝（第20図）

南西～北東方向に開削されており、27～29号溝と切りあうが前後関係は不明である。覆土はAs-B一次堆積層である。出土遺物はなく、覆土の状況から遺構の所属時期はAs-B降下直前と考えられる。なお、当遺構は第2遺構確認面で検出された54号溝の埋没過程に形成された溝である。

26号溝（第20図）

南西～北東方向に開削されている。覆土はAs-B一次堆積層である。出土遺物はなく、覆土の状況から遺構の所属時期はAs-B降下直前と考えられる。なお、当遺構は第2遺構確認面で検出された56号溝の埋没過程に形成された溝である。

27～30号溝（第20図）

南北方向に開削されており、並走している。27～29号溝は25号溝と切りあうが前後関係は不明である。覆土はAs-B一次堆積層である。出土遺物はなく、覆土の状況から遺構の所属時期はAs-B降下直前と考えられる。

31・32号溝（第20図）

31号溝は東西方向、32号溝は南北方向に開削されており、直角に交わる。両者の前後関係は不明である。覆土はAs-B混土である。出土遺物はなく、覆土の状況から遺構の所属時期はAs-B降下以降と考えられる。

33号溝（第20図）

南北方向に開削されており、31号溝を切る。覆土はAs-B混土である。出土遺物は須恵器壺であり、出土遺物および覆土の状況から遺構の所属時期はAs-B降下以降と考えられる。当遺構周辺にはB混土を覆土とする溝が多数検出されているが、それらの溝より幅広く深く掘削されている。また、覆土に含まれるAs-B軽石の混入比率も非常に高い。

34・35号溝（第20図）

南北方向に開削されており、並走している。覆土はAs-B混土である。出土遺物はなく、覆土の状況から遺構の所属時期はAs-B降下以降と考えられる。いずれも底面に掘削痕がみとめられ、34号溝は3列、35号溝は2列をなしている。

36号溝（第20図）

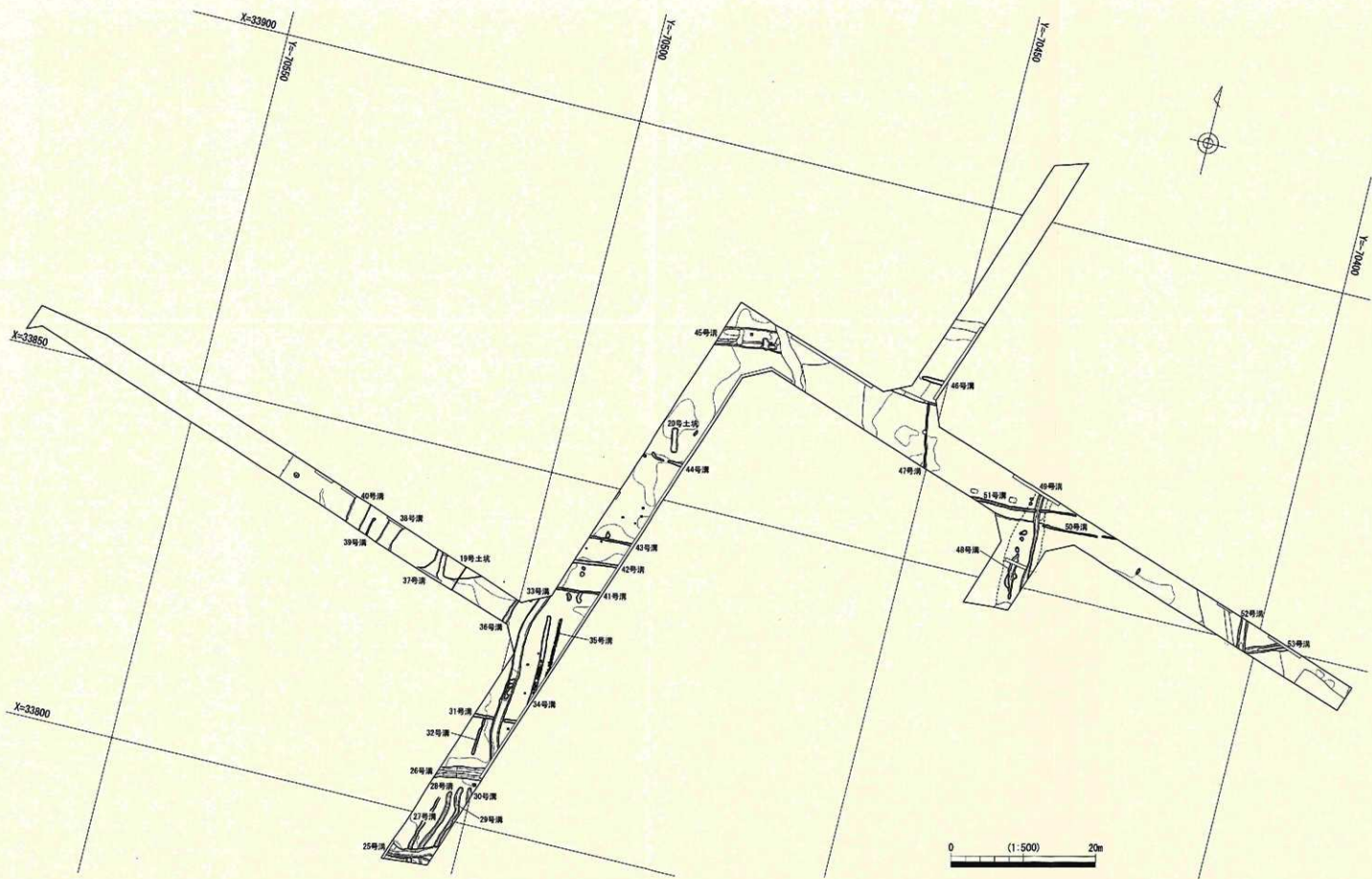
北東～南西方向に開削されている。覆土はAs-B一次堆積層である。出土遺物はなく、覆土の状況から遺構の所属時期はAs-B降下直前と考えられる。

37～40号溝（第21図）

南北方向に開削されている。覆土はAs-B一次堆積層である。出土遺物はなく、覆土の状況から遺構の所属時期はAs-B降下以降と考えられる。

41～44号溝（第22図）

東西方向に開削されており、41～43号溝は等間隔で並走している。覆土はAs-B混土である。出土遺物



はなく、出土遺物および覆土の状況から遺構の所属時期はA s - B 降下以降と考えられる。

45号溝 (第22図)

東西方向に開削されている。東側は擾乱によって破壊されており、擾乱以東には続かない。覆土は砂質土である。出土遺物はなく、覆土の状況から遺構の所属時期は中近世と考えられる。

47・50・51号溝 (第23図)

47号溝は南北方向、50・51号溝は東西方向に開削されており、49号溝を切る。覆土はA s - B 混土である。出土遺物はなく、覆土の状況から遺構の所属時期はA s - B 降下以降と考えられる。

48号溝 (第23図)

南北方向に開削されている。覆土は堅くしまった砂層である。出土遺物は土師器壺小片であり、遺構の所属時期は不明である。当遺構は後述するA s - B 一次堆積層が残存しない帯状の範囲内に位置し、軸方向も同じである。

49号溝 (第23図)

南北方向に開削されている。覆土はA s - B 一次堆積層である。出土遺物はなく、覆土の状況から遺構の所属時期はA s - B 降下直前と考えられる。当遺構も48号溝と同様にA s - B 一次堆積層が残存しない帯状の範囲内に位置し、軸方向も同じである。

52号溝 (第24図)

南北方向に開削されており、53号溝を切る。覆土はA s - B 混土である。出土遺物はなく、覆土の状況から遺構の所属時期はA s - B 降下以降と考えられる。

53号溝 (第24図)

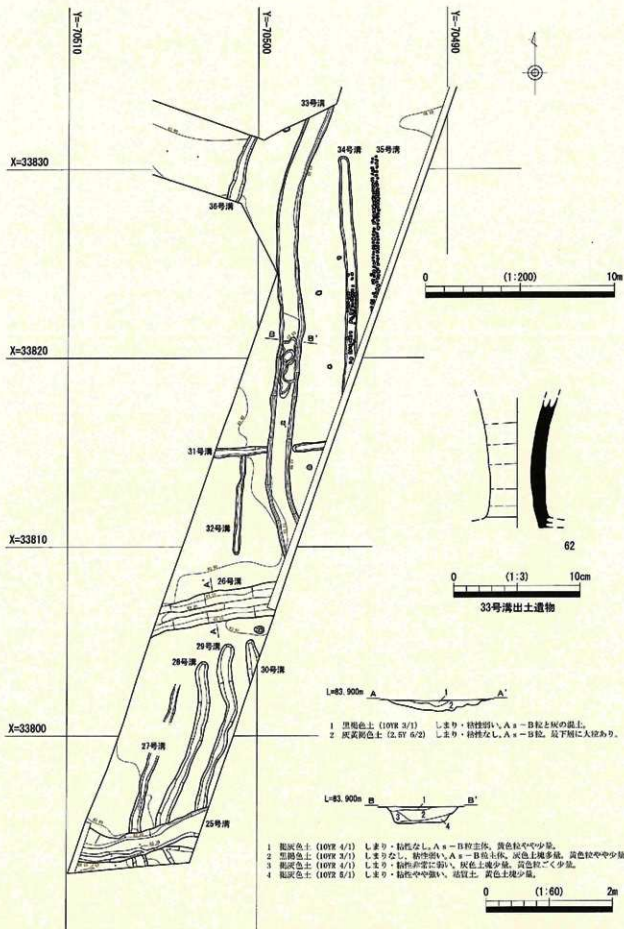
南西～北東方向に開削されており、52号溝に切られる。覆土はA s - B 一次堆積層である。出土遺物はなく、覆土の状況から遺構の所属時期はA s - B 降下直前と考えられる。なお、当遺構は第2遺構確認面で検出された72号溝の埋没過程に形成された溝である。

19号土坑 (第21図)

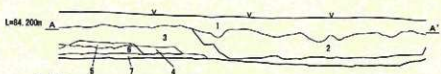
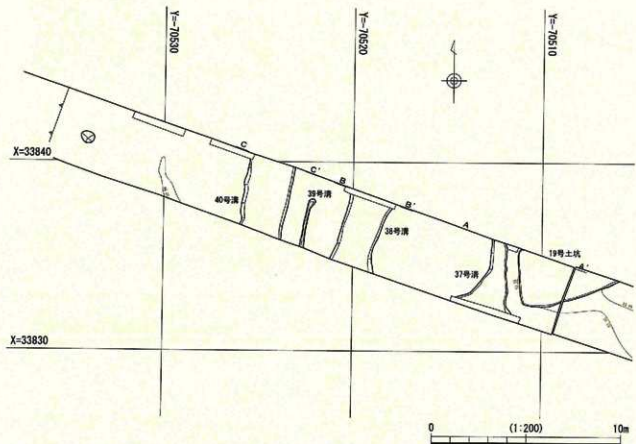
平面プランは長方形を呈すると思われる。覆土はA s - A 軽石である。出土遺物はなく、覆土の状況から遺構の所属時期はA s - A 降下以降と考えられる。遺構の性格としては火山灰処理坑が想定されるが、調査区内では同規模の掘り込みが並列する様子はいかかえり、単独あるいは北側に同規模の掘り込みが並ぶ可能性が考えられる。

大畦畔の痕跡 (第23図)

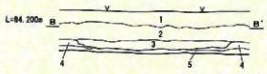
B区では全面的にA s - B 一次堆積層が確認できたが、一部で軽石が検出されない部分が帯状に確認された。主軸は南北方向である。この範囲は、断割りの結果下層にあたる黒色粘質土層が露出していることが明らかとなり、畦畔状の高まりが削平された痕跡である可能性が考えられる。この範囲内には48・49号溝が同方向に開削されており、特に49号溝はA s - B 降下直前の時期が考えられる。このことから、49号溝の東西に畦畔が並走し、水路を有する大畦畔が形成されていた可能性がある。



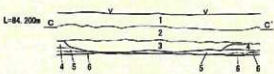
第20図 25～36号溝平面図・断面図・出土遺物



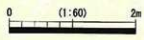
1. 表土
2. にごい黄褐色 (Oha10TR 5/4) しまり・粘性強い、A s-A粒主体、19号土坑覆土。
3. 褐色 (Oha10TR 4/4) しまりやや強く、粘性弱い、白色・褐色粒少量。
4. 暗褐色 (Oha10TR 3/2) しまり・粘性強い、A s-B粒多量、地山土塊混入、37号溝覆土。
5. 黒褐色 (Oha10TR 3/1) しまり・粘性強い、A s-B粒 (φ0.2~0.3mm) 少量。
6. 黒褐色 (Oha10TR 3/2) しまり・粘性強い、褐色粒ごく少量、白色粒少量。
7. 褐色 (Oha10TR 2/3) しまり・粘性強い、褐色粒少量。



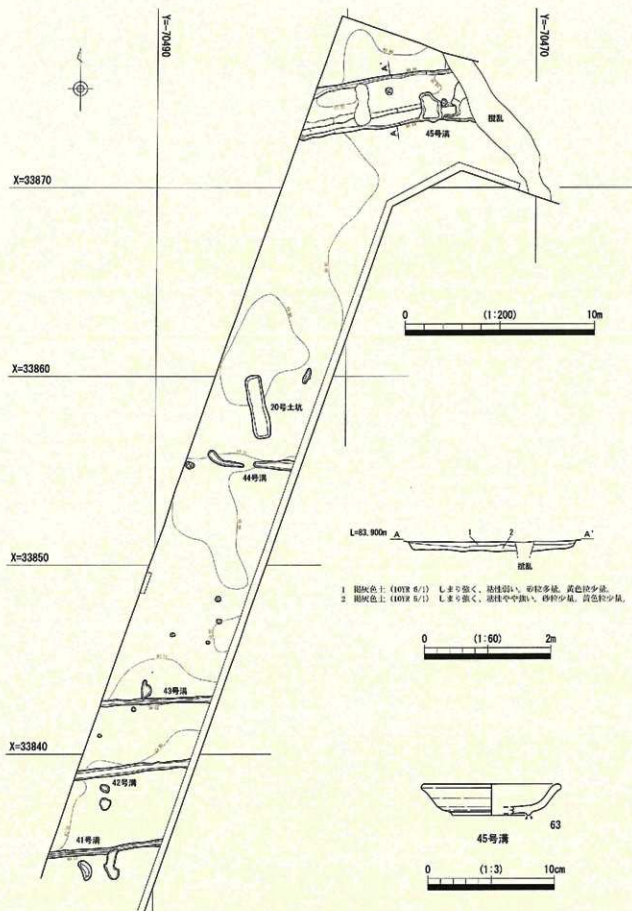
1. 表土 (1期)
2. 褐色土 (Oha10TR 4/4) しまりやや強く粘性弱い、白色粒を含む、褐色粒少量。
3. 暗褐色土 (Oha10TR 3/3) しまり・粘性強い、A s-B粒多量、地山ブロックを含む。
4. 黒褐色土 (Oha10TR 3/2) しまり・粘性強い、褐色粒ごく少量、白色粒少量。
5. 黒褐色土 (Oha10TR 2/3) しまり・粘性強い、褐色粒少量。



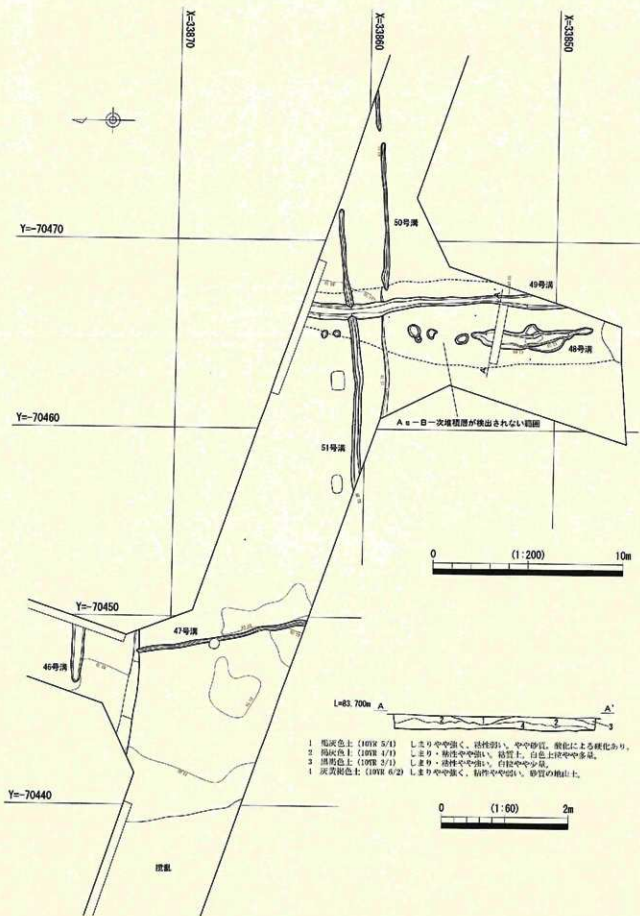
1. 1期 (表土)
2. 褐色土 (Oha10TR 4/4) しまりやや強く、粘性弱い、白色粒を含む、褐色粒少量。
3. 暗褐色土 (Oha10TR 3/3) しまり・粘性強い、A s-B粒多量、地山ブロックを含む。
4. 黒褐色土 (Oha10TR 3/2) しまり・粘性強い、褐色粒ごく少量、白色粒少量。
5. 黒褐色土 (Oha10TR 2/3) しまり・粘性強い、褐色粒少量。
6. 礫層 (黄色地山土塊)



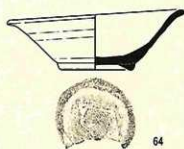
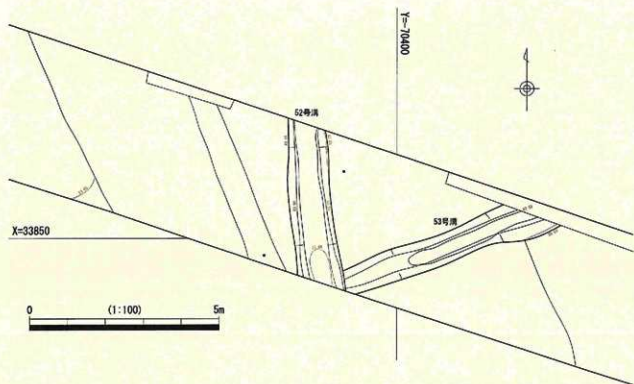
第21図 37~40号溝・19号土坑平面図・断面図



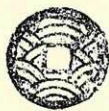
第 22 图 41 ~ 45 号溝平面図・断面図・出土遺物



第23図 46～51号溝平面図・断面図



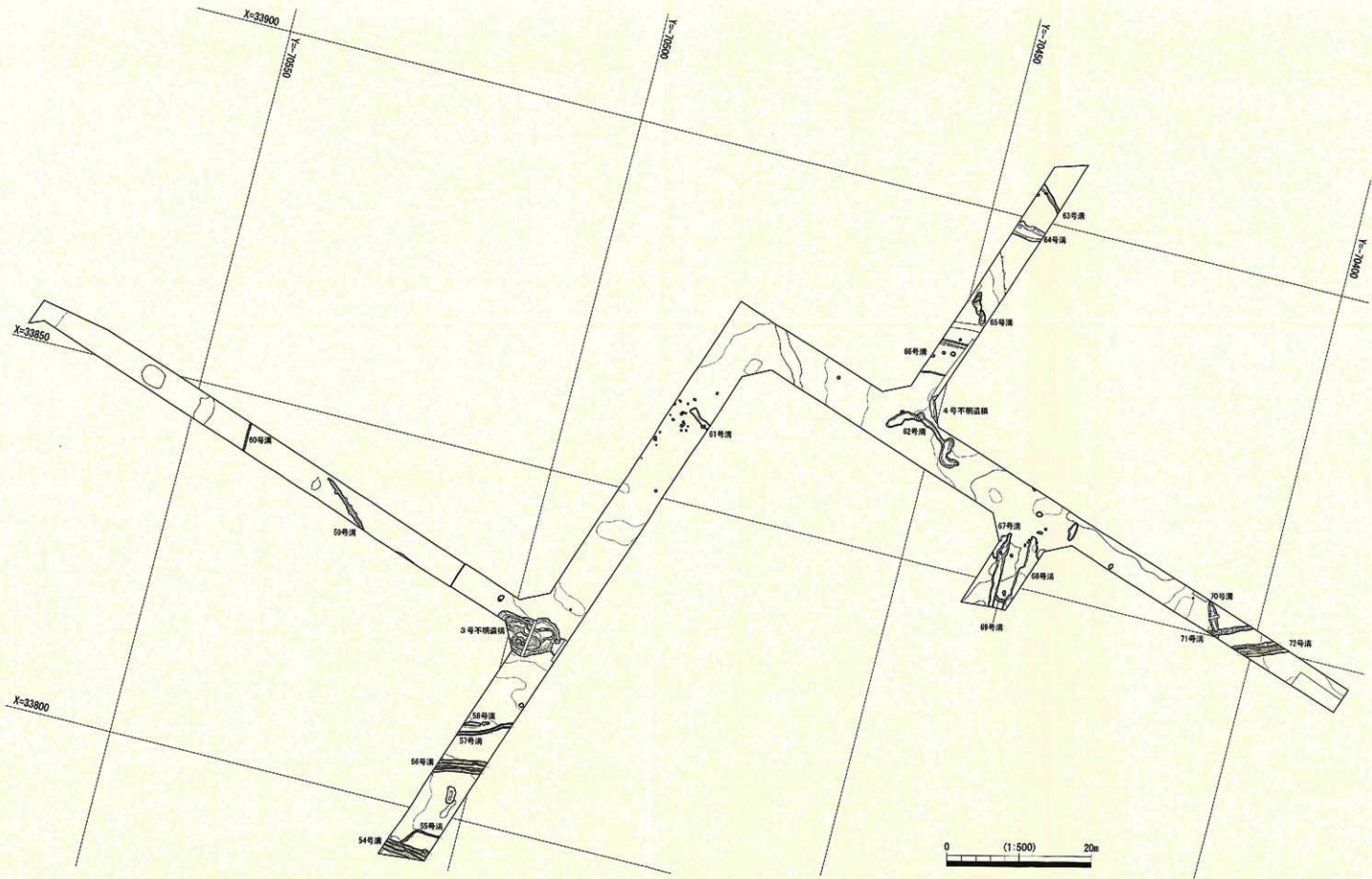
A a - B下



II層中



第24图 52·53号坑平面图·B区第1面出土文物



第 25 图 B区第 2 面全体图

(3) B区第2遺構確認面の調査成果

B区では基本土層第Ⅴ層（黄色地山土層）上面を第2遺構確認面とした。遺構は第1遺構確認面と同様に溝群が確認されているが遺構密度は希薄である。

この遺構検出面で確認された遺構群は、遺構の覆土の堆積状況が類似していることや、想定される遺構の所属時期がほぼ同じであるため、特徴的な遺構のみを抽出して記述している。その他の溝などの遺構については第3～5表を参照されたい。

54・56号溝（第26・27図）

東西方向に開削されており、54号溝は55号溝と切り合うが前後関係は不明である。いずれも幅・深さともにほぼ同規模であり、断面形も逆三角形を呈する。覆土は黒色粘質土である。出土遺物はなく、覆土の状況から遺構の所属時期はAs-B降下以前と考えられる。両遺構とも最終的にAs-Bの降下によって埋没しており、54・56号溝の最終段階がそれぞれ25・26号溝となっている。

67・68号溝（第30・31図）

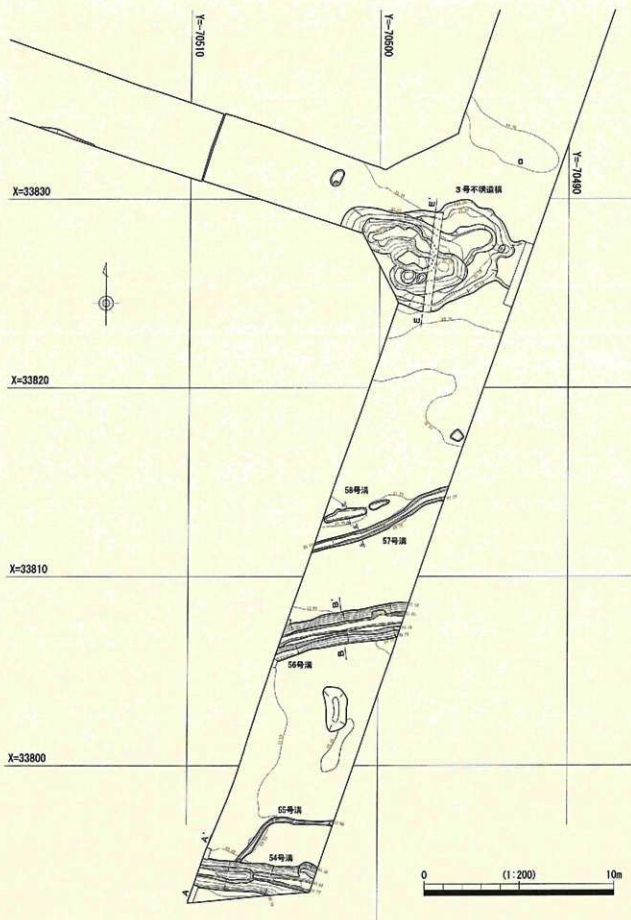
南北方向に開削されており、並走している。覆土は褐灰色土である。出土遺物は須恵器埴・坏、土師器坏・甕であり、遺構の所属時期は奈良・平安時代と考えられる。これらの溝は第1遺構確認面で検出された大吐畔の痕跡と思われる範囲にほぼ一致している。B下の段階以前から既に同位置・同軸の遺構が存在していた可能性がある。

72号溝（第30・31図）

南西～北東方向に開削されている。54・56号溝とほぼ同規模のものであり、断面形も逆三角形を呈する。出土遺物は土師器坏小片であり、出土遺物および覆土の状況から遺構の所属時期は奈良・平安時代と考えられる。当遺構も54・56号溝と同様、最終的にAs-Bの降下によって埋没しており、53号溝がその最終段階となっている。

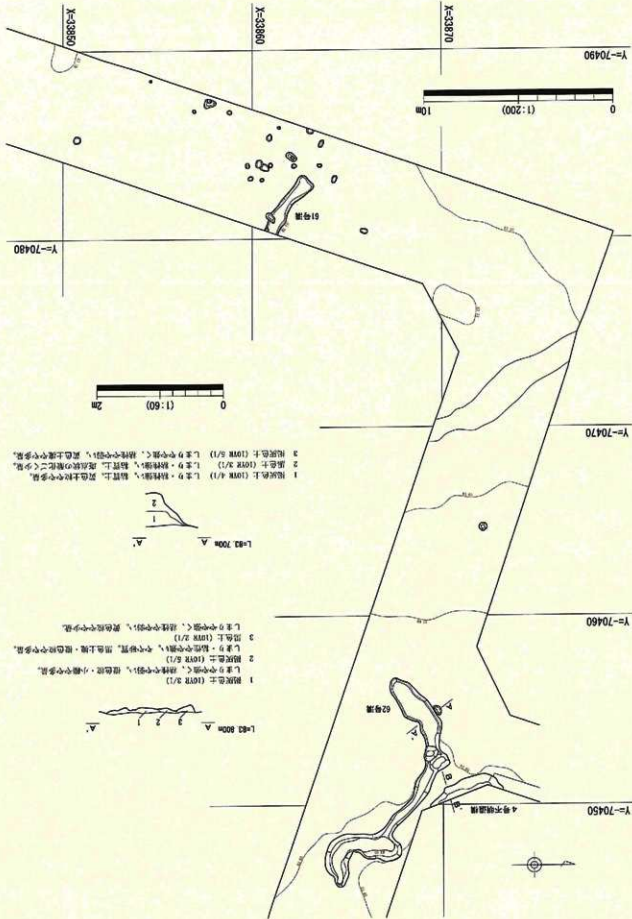
3号不明遺構（第26・27図）

平面は不整形を呈する。覆土は黒色および灰白色の粘質土である。出土遺物はなく、所属時期は不明である。平面プランも不整形で、底面も凹凸が激しく、遺物の出土もないことから人為的な掘削であるとは考えがたい。遺構の性格としては、自然発生的な窪地の痕跡である可能性を考えておきたい。

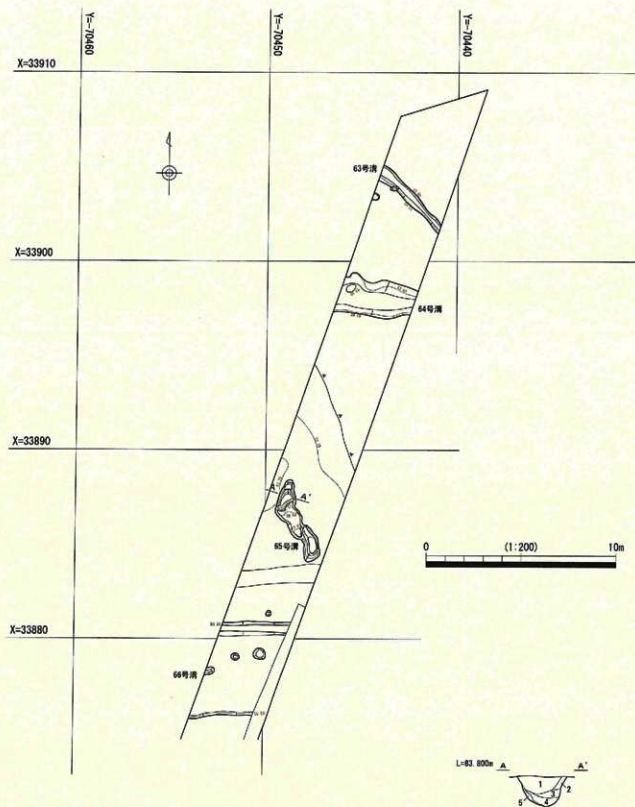


第26图 54～58号溝・3号不明遺構平面図

第28图 61·62号湾・4号不明遺構平面図・断面図



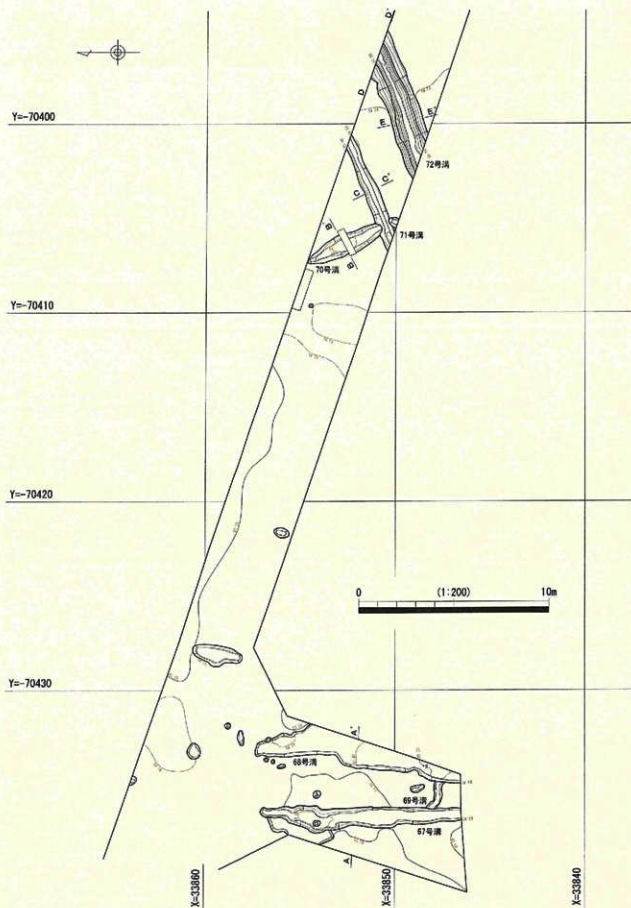
第28图 61·62号湾・4号不明遺構平面図・断面図



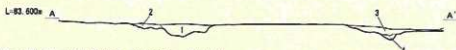
- | | |
|----------------------|------------------------------|
| 1 黒灰色土 (10YR 4/1) | しまり強く、粘性やや強い。小礫やや少量。褐色砂多量。 |
| 2 に灰い黄褐色土 (10YR 7/3) | しまり・粘性やや弱い。地山にのくすれ。粉色粒多量。 |
| 3 黒灰色土 (10YR 4/1) | しまり・粘性やや強い。白色土塊やや少量。 |
| 4 黒褐色土 (10YR 3/1) | しまりやや弱く、粘性やや強い。灰色土・褐色土粒やや多量。 |
| 5 に灰い黄褐色土 (10YR 7/3) | しまり・粘性やや弱い。地山と黒色土の混土。部分的に炭化。 |

0 (1:60) 2m

第29図 63～66号溝平面図・断面図



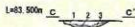
第 30 图 67 ~ 72 号溝平面图



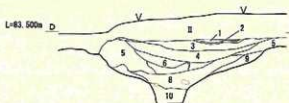
- 1 暗灰色土 (10YR 4/1) しまりやや弱く、粘性やや強い、褐色土粒少量。
- 2 暗灰色土 (10YR 5/1) しまり強く、粘性强い、黄色土粒やや多量。
- 3 暗灰色土 (10YR 4/1) しまり強く、粘性強い、小粒やや少く、黄色土粒やや多量。
- 4 暗灰色土 (10YR 5/1) しまり強く、粘性やや強い、白色粒多量。



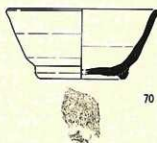
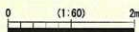
- 1 暗灰色土 (10YR 4/1) しまりやや弱く、粘性弱い、細砂質、斑点状の暗化やや多量。
- 2 暗灰色土 (10YR 6/1) しまりやや弱く、粘性弱い、細砂質、斑点状の暗化多量。



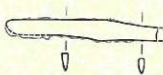
- 1 暗灰色土 (10YR 4/1) しまり・粘性弱い、粘粒やや多量。
- 2 暗灰色土 (10YR 3/1) しまりやや弱く、粘性やや強い、黄色土粒少量。
- 3 暗灰色土 (10YR 5/1) しまり・粘性弱い、黄色土粒やや少く。



- 1 暗褐色土 (5YR5/1) しまり・粘性強い、浮粒が少なかった灰土。(IV層)
- 2 暗褐色土 (2.5Y5/1) しまり・粘性強、みず色の灰土。(IV層)
- 3 に近い赤褐色土 (10YR5/2) しまり・粘性なし、A・B・H粒のみ。(IV層)
- 4 赤土 (10YR2/1) しまり強く、粘粒やや強い、粘粒・褐色土粒少量。
- 5 赤褐色土 (10YR6/2) しまりやや強く、粘性強い、褐色土多量。
- 6 暗灰色土 (10YR5/1) しまり・粘性やや強い、粘質土、白色粒やや多量、斑点状の暗化少量。
- 7 暗灰色土 (10YR5/1) しまりやや強く、粘性強い、粘質土、白色粒少量。
- 8 暗褐色土 (10YR4/1) しまり・粘性強い、粘質土、白色粒少量、斑点状の暗化多量。
- 9 暗褐色土 (10YR3/2) しまりやや強く、粘性やや強い、黄色土粒少量。
- 10 暗褐色土 (10YR3/1) しまり・粘性強い、粘質土、斑点状の暗化やや少く。
- 11 灰褐色土 (10YR6/2) しまり・粘性強い、粘質土、細粒の粘着土。

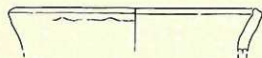


70



72

72号溝



71

68号溝



72

第31図 67～72号溝断面図・B区第2面出土遺物

第3表 検出遺構(溝)一覧表①

名称	図號	調査の略号	調査区	長径	短径	深さ	傾方向	遺物	時期	特記事項
1号溝	11	SD1	A区	(27.5)	1.09	0.12	N-11°-E	須恵器片-土、土師器片-土	中世	
2号溝	11	SD2	A区	(25.5)	1.14	0.13	N-15°-E	須恵器片-土、土師器片-土	中世	
3号溝	12	SD3	A区	(10.6)	0.41	0.32	N-19°-E	なし	B以前	
4号溝	12	SD4	A区	(13.7)	0.73	0.36	N-5°-W	須恵器-土師器小片	B以前	
5号溝	12	SD5	A区	(14.0)	0.97	0.15	N-18°-E	土師器片	B以前	
6号溝	12	SD6	A区	(9.3)	0.76	0.07	N-19°-E	土師器片-土	B以前	
7号溝	4	SD7	A区	(2.8)	0.36	0.08	N-7°-E	なし	B以前	
8号溝	4	SD8	A区	2.0	0.36	0.05	N-10°-E	なし	B以前	L字状
9号溝	4	SD9	A区	1.8	0.28	0.08	N-11°-E	なし	B以前	
10号溝	4	SD10	A区	(2.0)	0.17	0.18	N-29°-E	土師器片	B以前	
11号溝	4	SD11	A区	(1.8)	0.32	0.05	N-81°-E	なし	B以前	
12号溝	4	SD12	A区	(1.1)	0.26	0.09	N-17°-E	なし	B以前	
13号溝	4	SD13	A区	(1.2)	0.25	0.04	N-82°-W	なし	B以前	
14号溝	13	SD14	A区	(12.5)	0.57	0.14	N-7°-E	須恵器片-土、土師器片-土	不明	
15号溝	13	SD15	A区	(8.0)	0.64	0.12	N-9°-E	須恵器片、須恵器片、土師器片-土	中世	
16号溝	13	SD16	A区	(12.0)	0.65	0.18	N-10°-E	須恵器片-土、土師器片	不明	
17号溝	13	SD17	A区	(3.7)	0.85	0.13	N-10°-W	土師器片-土	不明	
18号溝	13	SD18	A区	(9.0)	0.57	0.18	N-14°-E	なし	不明	
19号溝	13	SD19	A区	(2.1)	0.49	0.10	N-11°-W	須恵器小片、土師器片-土	B後	
20号溝	4	SD20	A区	(6.3)	1.00	0.41	N-81°-W	須恵器-土師器小片	B以前	
21号溝	14	SD21	A区	(6.1)	1.55	0.59	N-54°-W	なし	B以前	
22号溝	14	SD22	A区	(13.5)	2.18	0.68	N-54°-E	須恵器片、土師器片	B以前	
23号溝	14	SD23	A区	(2.5)	2.00	0.52	N-81°-E	須恵器片	B以前	
24号溝	16	SD41	A区	(7.7)	2.12	0.19	N-83°-E	須恵器小片、土師器片	奈良平安	地山面で検出
25号溝	20	SD24	B区第1面	(6.5)	1.28	0.18	N-75°-E	なし	B以前	51号溝最上層
26号溝	20	SD25	B区第1面	(6.6)	1.48	0.17	N-80°-W	なし	B以前	58号溝最上層
27号溝	20	SD26	B区第1面	(9.7)	0.58	0.04	N-14°-E	なし	B以前	
28号溝	20	SD27	B区第1面	(9.0)	0.63	0.03	N-22°-E	なし	B以前	
29号溝	20	SD28	B区第1面	(8.8)	0.73	0.06	N-18°-E	なし	B以前	
30号溝	20	SD29	B区第1面	(2.0)	0.69	0.08	N-9°-W	なし	B以前	
31号溝	20	SD30	B区第1面	(5.7)	0.66	0.09	N-4°-E	なし	B後	
32号溝	20	SD31	B区第1面	(5.3)	0.33	0.03	N-3°-E	なし	B後	
33号溝	20	SD32	B区第1面	(21.0)	1.12	0.26	N-5°-E	なし	B後	
34号溝	20	SD33	B区第1面	(12.8)	0.71	0.10	N-4°-W	なし	B後	掘削痕
35号溝	20	SD40	B区第1面	(8.9)	0.40	0.03	N-1°-W	なし	B後	掘削痕
36号溝	20	SD39	B区第1面	(3.6)	0.73	0.04	N-18°-E	なし	B直前	
37号溝	21	SD2-SD18	B区第1面	(3.8)	0.92	0.13	N-2°-E	なし	B後	
38号溝	21	SD2-SD19	B区第1面	(3.8)	2.05	0.17	N-19°-E	なし	B後	
39号溝	21	SD2-SD20	B区第1面	(3.8)	0.33	0.08	N-11°-E	なし	B後	
40号溝	21	SD2-SD21	B区第1面	(3.8)	2.48	0.12	N-10°-E	なし	B後	
41号溝	22	SD34	B区第1面	(6.1)	0.34	0.07	N-84°-E	なし	B後	
42号溝	22	SD35	B区第1面	(6.0)	0.49	0.06	N-82°-E	なし	B後	
43号溝	22	SD36	B区第1面	(5.8)	0.34	0.04	N-88°-E	なし	B後	
44号溝	22	SD37	B区第1面	(4.8)	0.55	0.03	N-80°-W	なし	B後	
45号溝	22	SD38	B区第1面	(9.3)	2.66	0.14	N-83°-E	なし	中世後	
46号溝	23	SD52	B区第1面	(3.6)	0.64	0.04	N-86°-W	なし	不明	
47号溝	23	SD55	B区第1面	(9.1)	0.23	0.06	N-11°-W	なし	B後	
48号溝	23	SD48	B区第1面	6.4	1.13	0.14	N-4°-W	土師器小片	不明	
49号溝	23	SD49	B区第1面	(13.0)	0.81	0.03	N-3°-W	なし	B以前	
50号溝	23	SD50	B区第1面	(10.7)	0.23	0.03	N-88°-E	なし	B後	
51号溝	23	SD51	B区第1面	(14.8)	0.44	0.05	N-82°-E	なし	B後	
52号溝	24	SD53	B区第1面	(4.8)	1.11	0.17	N-8°-W	なし	B後	
53号溝	24	SD54	B区第1面	(5.7)	0.88	0.08	N-70°-E	なし	B以前	72号溝最上層
54号溝	26	SD42	B区第2面	(4.8)	1.38	0.64	N-83°-W	なし	奈良平安	

第4表 検出遺構(溝)一覽表②

名称	区画	調査地略号	調査区	形状	長軸	短軸	深さ	軸方向	遺物	時期	特記事項
55号溝	26	SD43	B区第2層	長方形	(8.70)	0.33		N-30°-E	なし	B以前	
56号溝	26	SD44	B区第2層	長方形	(8.73)	1.61	0.72	N-80°-E	なし	奈良平安	
57号溝	26	SD45	B区第2層	長方形	(7.60)	0.46	0.33	N-72°-E	なし	B以前	
58号溝	26	SD46	B区第2層	長方形	3.67	0.68	0.12	N-77°-E	なし	B以前	
59号溝	27	502-SD22	B区第2層	長方形	(8.85)	0.49	0.14	N-68°-W	なし	B前	
60号溝	27	502-SD23	B区第2層	長方形	(4.01)	0.32	0.39	N-1°-E	なし	B前	
61号溝	28	SD47	B区第2層	長方形	(3.53)	0.92	0.08	N-53°-W	なし	B前	
62号溝	28	SD60	B区第2層	長方形	11.50	1.13	0.09	N-85°-W	なし	B前	
63号溝	29	SD56	B区第2層	長方形	(4.38)	0.65	0.09	N-45°-W	なし	B前	
64号溝	29	SD57	B区第2層	長方形	(4.05)	2.03	0.05	N-81°-W	なし	B前	
65号溝	29	SD88	B区第2層	長方形	4.43	0.92	0.33	N-37°-W	なし	B前	
66号溝	29	SD59	B区第2層	長方形	(4.06)	4.57	0.11	N-88°-W	土師器小片	B前	
67号溝	30	SD61	B区第2層	長方形	(10.55)	1.09	0.19	N-2°-E	須恵器灰・土師器片	奈良平安	
68号溝	30	SD62	B区第2層	長方形	(10.90)	(1.50)	0.18	N-3°-W	須恵器灰・土師器灰	奈良平安	
69号溝	30	SD66	B区第2層	長方形	(1.50)	0.38	0.12	N-79°-W	なし	B前	
70号溝	30	SD65	B区第2層	長方形	(4.30)	1.03	0.20	N-30°-W	なし	B前	
71号溝	30	SD64	B区第2層	長方形	(5.90)	0.73	0.13	N-68°-E	なし	B前	
72号溝	30	SD63	B区第2層	長方形	(5.90)	1.08	0.68	N-68°-E	土師器小片	奈良平安	

第5表 検出遺構(土坑・井戸・不明遺構)一覽表

名称	区画	調査地略号	調査区	形状	長軸	短軸	深さ	軸方向	遺物	時期	特記事項
1号土坑	4	SK1	A区	方	1.75	1.70	0.07	S-12°-E	なし	B以前	
2号土坑	4	SK2	A区	長方形	4.85	1.06	0.24	S-80°-W	土師器小片等	B以前	
3号土坑	4	SK3	A区	長方形	1.34	0.53	0.07	S-14°-E	なし	B以前	
4号土坑	4	SK4	A区	長方形	0.88	0.53	0.06	S-7°-E	なし	不明	
5号土坑	4	SK5	A区	方	0.70	0.73	0.12	S-25°-E	なし	不明	
6号土坑	4	SK6	A区	長方形	0.83	0.52	0.07	S-18°-E	なし	不明	
7号土坑	4	SK7	A区	長方形	(0.88)	0.73	0.11	S-70°-W	なし	不明	
8号土坑	4	SK8	A区	円	0.65	0.75	0.24	-	なし	不明	
9号土坑	4	SK9	A区	楕円	0.81	0.61	0.07	S-3°-E	なし	不明	
10号土坑	4	SK10	A区	長方形	(0.80)	0.50	0.20	S-88°-W	なし	不明	
11号土坑	4	SK11	A区	長方形	1.30	0.79	0.12	S-86°-W	なし	不明	
12号土坑	14	SK12	A区	長方形	(1.65)	0.86	0.13	S-5°-W	なし	不明	
13号土坑	14	SK13	A区	長方形	(2.85)	0.73	0.22	S-8°-W	なし	不明	
14号土坑	14	SK14	A区	長方形	(1.65)	0.75	0.12	S-9°-W	なし	不明	
15号土坑	14	SK15	A区	長方形	1.49	(0.60)	0.06	S-86°-W	なし	不明	
16号土坑	4	SK16	A区	長方形	1.30	0.82	0.08	S-89°-E	なし	不明	
17号土坑	4	SK17	A区	楕円	1.14	0.87	0.14	S-9°-W	なし	不明	
18号土坑	17	SK20	A区	不整	2.35	1.44	0.39	S-35°-E	土師器小片	奈良平安	
19号土坑	21	SK19-502-SK14	B区第1層	長方形	(5.20)	(3.11)	0.08	S-75°-E	なし	近江以降	A地層
20号土坑	22	SK18	B区第1層	長方形	5.35	9.20	0.31	S-10°-W	土師器片	B後	
1号井戸	17	SK1	A区	円	2.16	(1.03)	(1.18)	-	陶器片等	中世	
2号井戸	4	SK2	A区	円	1.12	0.95	(0.88)	-	土師器小片	不明	
1号不明遺構	4	SK2	A区	方	8.79	(8.5)	0.65	N-15°-E	須恵器灰・土師器片	B後	
2号不明遺構	17	SK3	A区	楕円	(4.22)	(3.75)	0.23	N-22°-E	須恵器灰・土師器片	奈良平安	
3号不明遺構	26	SK4	B区第2層	不規則	(10.03)	5.22	0.56	N-77°-W	なし	不明	小溝の遺構
4号不明遺構	28	SK5	B区第2層	方	3.71	(0.78)	0.67	S-20°-E	なし	B以前	

第6表 出土遺物観察表①

番号	図版	出土地	図録	法量 (cm)			図解・縮丈		色調	粘土・石材	備考
				口径	底径	器高	外面	内面			
1	5	1号壺穴住居跡	瓶蓋部 環	16.0	-	(6.5)	ロクロナデ	ロクロナデ	浅黄褐色 Iue30YR6/3	石灰、長石、白・黒色粒、小塵	
2	5	1号壺穴住居跡	瓶蓋部 環	-	-	(4.7)	ロクロナデ後ヨコナデ、回転糸切離し後高台継ぎ付	ロクロナデ	灰白色 Iue30YR7/1	長石、黒・褐色粒、小塵	
3	5	1号壺穴住居跡	瓶蓋部 環	12.2	7.2	3.5	ロクロナデ、回転糸切離し	ロクロナデ	褐色 Iue30YR6/1	長石、黒色粒、小塵	
4	5	1号壺穴住居跡	瓶蓋部 環	11.4	7.0	4.0	ロクロナデ、回転糸切離し	ロクロナデ	灰白色 Iue30YR7/1	白・褐色粒	
5	5	1号壺穴住居跡	土師器 杯	12.0	10.0	(3.5)	体部ヨコナデ、底部ヘラケズリ	ヨコナデ	褐色 Iue5YR6/6	石灰、長石、角閃石、小塵	
6	6	2号壺穴住居跡	瓶蓋部 環	14.0	8.4	4.1	ロクロナデ	ロクロナデ	灰白色 Iue2.5Y7/1	長石、角閃石、小塵	切り離し不明瞭
7	6	2号壺穴住居跡	瓶蓋部 環	-	6.6	(1.8)	ロクロナデ、回転糸切離し	ロクロナデ	褐色 Iue7.5YR6/1	長石、白色粒、小塵	
8	6	2号壺穴住居跡	土師器 杯	12.2	8.5	(3.7)	口縁ヨコナデ、体部一底部ヘラケズリ	ヨコナデ	褐色 Iue7.5YR6/1	石灰、長石、角閃石、黒色粒	摩耗著しい
9	6	2号壺穴住居跡	土師器 杯	11.7	8.0	(3.3)	口縁ヨコナデ、体部一底部ヘラケズリ	ヨコナデ	褐色 Iue5YR6/6	石灰、長石、角閃石、小塵	
10	6	2号壺穴住居跡	土師器 杯	14.2	-	(2.2)	口縁ヨコナデ、底部ヘラケズリ	ヨコナデ	褐色 Iue5YR6/6	長石、角閃石、黒・褐色粒	
11	6	2号壺穴住居跡	土師器 壺	19.4	-	(12.6)	口縁ヨコナデ、底部ヘラケズリ	口縁ヨコナデ、底部ヘラケズリ	明赤褐色 Iue3YR5/6	長石、角閃石、褐色粒	
12	8	4号壺穴住居跡	瓶蓋部 環	16.8	-	3.8	コクロナデ、天井部ヘラケズリ後つまみ継ぎ付	コクロナデ	黄褐色 Iue2.5Y6/1	長石、黒色粒	
13	8	4号壺穴住居跡	瓶蓋部 環	12.4	7.6	3.6	コクロナデ	ロクロナデ	褐色 Iue30YR6/1	長石、小塵	
14	8	4号壺穴住居跡	瓶蓋部 環	12.4	7.0	3.8	コクロナデ、回転糸切離し	ロクロナデ	黄褐色 Iue2.5Y6/1	長石、小塵	切り離し不明瞭
15	8	4号壺穴住居跡	瓶蓋部 環	12.1	6.5	3.8	コクロナデ、回転糸切離し	ロクロナデ	灰白色 Iue7.5YR6/1	長石、黒・褐色粒	土師質
16	8	4号壺穴住居跡	瓶蓋部 環	11.9	6.4	3.7	コクロナデ、回転糸切離し	ロクロナデ	浅黄褐色 Iue30YR6/3	長石、褐色粒、小塵	土師質
17	8	4号壺穴住居跡	土師器 杯	11.0	6.0	4.4	ヨコナデ、ユビヤキエ	ヨコナデ、ユビヤキエ	褐色 Iue7.5YR7/6	長石、角閃石、褐色粒	
18	8	4号壺穴住居跡	土師器 杯	14.2	10.0	4.0	口縁ヨコナデ、体部ヘラケズリ	ナデ	褐色 Iue5YR6/6	長石、角閃石、黒色粒	ケズリ不明瞭
19	8	4号壺穴住居跡	土師器 杯	12.2	10.6	3.7	口縁ヨコナデ、体部ヘラケズリ(弱)	ヨコナデ	褐色 Iue3YR6/4	石灰、角閃石、黒色粒	ケズリ不明瞭
20	8	4号壺穴住居跡	土師器 杯	12.6	10.8	3.3	口縁ヨコナデ、体部ヘラケズリ	ヨコナデ	褐色 Iue7.5YR7/4	長石、角閃石、黒色粒	
21	8	4号壺穴住居跡	土師器 杯	12.0	10.8	2.9	口縁ヨコナデ、体部ヘラケズリ	ヨコナデ	褐色 Iue7.5YR7/6	石灰、長石、角閃石、小塵	
22	8	4号壺穴住居跡	土師器 壺	19.8	-	(25.1)	口縁ヨコナデ、胴ヘラケズリ	口縁ヨコナデ、胴ヘラケズリ	褐色 Iue2.5YR6/6	長石、小塵、褐色粒	
23	9	4号壺穴住居跡	土師器 壺	20.0	-	(21.4)	口縁ヨコナデ、胴ヘラケズリ	口縁ヨコナデ、胴ヘラケズリ	褐色 Iue5YR6/6	石灰、長石、角閃石	
24	9	4号壺穴住居跡	土師器 壺	17.7	-	(17.8)	口縁ヨコナデ、胴ヘラケズリ	ヨコナデ、ユビヤキエ	明赤褐色 Iue2.5YR5/6	石灰、角閃石	
25	9	4号壺穴住居跡	土師器 壺	21.0	-	(17.8)	口縁ヨコナデ、胴ヘラケズリ	ヨコナデ	明赤褐色 Iue5YR5/6	石灰、角閃石、褐色粒	
26	9	4号壺穴住居跡	土師器 壺	21.8	-	(5.1)	口縁ヨコナデ、胴ヘラケズリ	ヨコナデ	褐色 Iue5YR6/6	長石、角閃石、褐色粒	
27	9	4号壺穴住居跡	土師器 壺	20.0	-	(7.5)	口縁ヨコナデ、胴ヘラケズリ	コヘラナデ	明赤褐色 Iue5YR5/6	長石、輝石、黒・褐色粒	
28	9	4号壺穴住居跡	土師器 壺	18.6	-	(5.8)	口縁ヨコナデ、胴ヘラケズリ	ヨコナデ	褐色 Iue5YR6/6	石灰、長石、黒・褐色粒	
29	9	4号壺穴住居跡	土師器 壺	21.6	-	(5.7)	口縁ヨコナデ、胴ヘラケズリ	ヨコナデ	褐色 Iue5YR6/6	長石、角閃石、褐色粒	
30	10	5号壺穴住居跡	瓶蓋部 環	11.0	5.5	3.5	コクロナデ、回転糸切離し	ロクロナデ	黄褐色 Iue2.5Y7/1	石灰、長石、褐色粒	
31	10	5号壺穴住居跡	瓶蓋部 環	12.9	7.0	3.4	コクロナデ、回転糸切離し	ロクロナデ	褐色 Iue3YR5/1	長石、褐色粒	
32	10	5号壺穴住居跡	瓶蓋部 環	-	-	6.6	口縁ヨコナデ、口縁ロクロナデ	ロクロナデ	褐色 Iue30YR6/3	長石、褐色粒	
33	10	5号壺穴住居跡	瓶蓋部 環	-	-	(33.5)	口縁ヨコナデ、胴ヘラケズリ	口縁ヨコナデ、胴ヘラケズリ	明赤褐色 Iue7.5YR7/1	長石、黒・褐色粒	
34	10	5号壺穴住居跡	土師器 壺	10.9	8.0	3.0	口縁ヨコナデ、体部ヘラケズリ	ナデ	明赤褐色 Iue3YR5/4	石灰、長石、角閃石	
35	10	5号壺穴住居跡	土師器 壺	-	2.0	(21.5)	ヘラケズリ	ヘラナデ小	褐色 Iue5YR6/6	長石、黒・褐色粒	
36	11	1号溝	軟骨陶器 鉢	-	12.4	(5.4)	ヨコナデ、底面ナデ	ナデ	黄褐色 Iue2.5YR4/1	長石、褐色粒	
37	11	1号溝	瓶蓋部 平皿	-	-	(2.8)	ヨコナデ	ヨコナデ	灰白色 Iue7.5YR8/1	長石、褐色粒	
38	11	2号溝	軟骨陶器 鉢	-	-	(5.2)	ヨコナデ	ヨコナデ	褐色 Iue7.5YR5/1	長石、褐色粒	

第7表 出土遺物観察表②

番号	図取	出土地	器種	法長 (cm)			調査-施文		色別	粘土・石材	備考
				口径	底径	器高	外面	内面			
39	13	14号溝	須恵器 埴輪	11.5	7.3	3.7	ロクロナデ、刻線装飾なし	ロクロナデ	黒灰色 Hue7.5YR6/1	長石、黒色粒	
40	13	15号溝	伏拝内器 内耳蓋	31.6	-	(7.8)	ヘラナデ後ユビナデ	ヨコナデ	黄褐色 Hue10YR5/2	長石、輝石、黒・赤色粒	
41	13	17号溝	埴輪 蓋	-	-	(6.2)	口縁ヨコナデ、目取行タタキ	ヨコナデ	黄灰色 Hue2.5YR1/1	長石、黒色粒	
42	15	22号溝	須恵器 埴輪	13.2	5.2	4.5	ロクロナデ	ロクロナデ	黒灰色 Hue10YR6/1	長石、黒色粒	切り跡し不明
43	15	22号溝	須恵器 埴輪	-	6.6	(2.5)	ロクロナデ	ロクロナデ	明褐色 Hue7.5YR7/2	長石、輝石、黒・赤色粒	土師質、切り跡し不明
44	16	24号溝	須恵器 埴輪	-	-	(2.4)	ロクロナデ、刻線装飾なし最高台縁付	ロクロナデ	黄灰色 Hue10YR5/1	長石、ガラス質 色粒	
45	16	24号溝	土師器 埴輪	13.9	11.2	2.9	口縁ヨコナデ、体部ヘラケズリ	ヨコナデ	褐色 Hue5YR6/5	長石、角閃石、赤色粒	摩耗著しい
46	16	24号溝	土師器 埴輪	13.8	8.9	3.9	口縁ヨコナデ、体部ヘラケズリ、底面ナデ	ヨコナデ	褐色 Hue7.5YR6/5	長石、黒・赤色粒	摩耗著しい
47	16	24号溝	土師器 埴輪	11.8	9.7	(3.1)	口縁ヨコナデ、体部ヘラケズリ、底面ヘラケズリ	ヨコナデ	褐色 Hue7.5YR6/5	石英、長石、輝石	摩耗著しい
48	16	24号溝	土師器 埴輪	13.7	10.9	(3.1)	口縁ヨコナデ、体部ヘラケズリ	ヨコナデ	褐色 Hue7.5YR6/5	長石、角閃石、赤色粒	
49	17	1号溝II	須恵器 埴輪 蓋付	-	-	(4.1)	ヨコナデ	ヨコナデ	明褐色 Hue5YR5/5	長石、赤色粒	
50	17	18号土坑	須恵器 埴輪	12.4	7.8	4.4	ロクロナデ、左側縁部刻線し最高台縁付	ロクロナデ	灰白色 Hue10YR7/1	長石、黒色粒	
51	18	1号不明遺構	須恵器 埴輪	-	-	(2.7)	ロクロナデ、尖部部ヘラケズリ後つまみ彫付	ロクロナデ	黒褐色 Hue10YR6/1	長石、黒色粒	
52	18	1号不明遺構	須恵器 埴輪	13.6	7.8	4.5	ロクロナデ、左側縁部刻線し	ロクロナデ	黒褐色 Hue7.5YR7/1	長石、黒・赤色粒	土師質
53	18	1号不明遺構	土師器 埴輪	13.8	11.0	1.9	口縁ヨコナデ、底面ヘラケズリ(割)カ	ヨコナデ	褐色 Hue5YR6/5	長石、角閃石	
54	18	1号不明遺構	土師器 埴輪	11.8	9.8	2.8	口縁ヨコナデ、体部一底部ヘラケズリ	ヨコナデ	褐色 Hue7.5YR6/5	長石、角閃石、赤色粒	
55	18	1号不明遺構	土師器 蓋	21.0	-	(4.7)	口縁ヨコナデ、割ヘラケズリ	ヨコナデ	赤褐色 Hue5YR4/6	長石、角閃石、赤色粒	
56	18	1号不明遺構	須恵器 埴輪	17.2	6.2	4.0					
57	18	遺構外	須恵器 蓋	16.6	-	(3.1)	ロクロナデ、尖部部ヘラケズリ	ロクロナデ	灰色 Hue10YR6/0	長石、黒色粒	
58	18	遺構外	土師器 埴輪	14.0	9.4	3.5	ヨコナデ	ヨコナデ	褐色 Hue7.5YR7/5	長石、黒・赤色粒	摩耗著しい
59	18	遺構外	土師器 埴輪	12.8	9.2	3.5	口縁ヨコナデ、体部ヘラケズリ	ヨコナデ	黄褐色 Hue10YR7/5	長石、黒・赤色粒	
60	18	遺構外	須恵器 埴輪 蓋付	長さ (8.9)	径 1.8	厚さ 1.4					
61	18	板瓦	須恵器 板瓦	-	-	(9.9)	ロクロナデ	ロクロナデ	灰白色 Hue10YR7/1	白・黒色粒	
62	20	33号溝	須恵器 埴輪 蓋	-	-	(10.2)	ロクロナデ	ロクロナデ	黒褐色 Hue10YR6/1	長石、黒色粒	
63	22	38号溝	須恵器 埴輪 蓋	10.4	6.2	2.5	白色粒	白色粒	灰白色 Hue5Y 7/1	黒色粒	
64	24	遺構外	須恵器 埴輪	13.8	8.7	4.3	ロクロナデ、刻線装飾なし最高台縁付	ロクロナデ	黒褐色 Hue10YR3/2	長石、黒・赤色粒	土師質
65	24	遺構外	須恵器 埴輪	-	5.8	(2.5)	ロクロナデ、刻線装飾なし	ロクロナデ	灰白色 Hue10YR7/1	長石、黒色粒	
66	24	遺構外	須恵器 埴輪	-	5.5	(1.3)	ロクロナデ、刻線装飾なし	ロクロナデ	灰白色 Hue10YR7/1	長石、黒色粒	
67	24	II層中	須恵器 高足 杯	直径 2.2	-	厚さ 0.1					定本鑑定
68	24	II層中	須恵器 高足 杯	直径 2.4	-	厚さ 0.1					定本鑑定
69	27	44号溝	土師器 埴輪	12.6	8.3	3.1	口縁ヨコナデ、体部ヘラケズリ	ヨコナデ	褐色 Hue5YR6/6	石英、長石、黒色 粒	摩耗著しい
70	31	62号溝	須恵器 埴輪	11.6	6.9	3.5	ロクロナデ、左側縁部刻線し最高台縁付	ロクロナデ	灰白色 Hue10YR7/1	長石、黒色粒	
71	31	62号溝	土師器 蓋	20.0	-	(3.4)	ヨコナデ	ヨコナデ	褐色 Hue5YR6-6	長石、黒・赤色粒	
72	31	63号溝	須恵器 埴輪 蓋付	長さ 8.0	径 1.3	厚さ 0.2					

第5章 成果と問題点

今回の調査では、A区では主に奈良・平安時代の竪穴住居跡や中世の溝・井戸などが、B区では主にB降下前後の溝群や、B下の大畦畔と推測される痕跡などが検出された。双方の調査区で遺構の様相が大きく異なっており、さらにA区ではAs-B一次堆積層が確認できない。このことからA区の方が若干高くなっており、上層が大きく削平されていると考えられる。本章では、今回の調査成果および過年度の調査成果をあわせて遺構の分布状況を検討し、若干の考察を行いたい。

奈良・平安時代の集落

今回の調査で確認できた該当時期の竪穴住居跡はA区のみであり、特に南東部に限られる。遺構の残存状況は良好でないが、出土遺物から8世紀後半～9世紀前半頃を中心とした住居群と考えられる。これらの住居群の東側に隣接する過年度の調査区では、該当時期の竪穴住居跡は確認されていない。近辺で竪穴住居跡が確認できた箇所は、本調査区から東へ約100mの地点である駅北V-6区、さらにそこから100mほど東の駅北IV-6区の一部のみである。駅北V-6区では3軒、駅北IV-6区では4軒が確認されており、駅北V-6区の住居群の時期が明確でないが、駅北IV-6区の住居群は出土遺物から概ね9世紀後半頃のものであると思われる。

倉賀野駅北遺跡周辺では、以上の3箇所住居群が確認されているが、現在のところこれらの住居跡が帯状に連続と分布する様子はうかがえないが、調査区が道路範囲に限定されているため全容を断定することはできない。現時点では、東西方向の帯状に集落が展開する可能性と、数件の住居群が点在している可能性の両方を考えておきたい。いずれにせよ、北方に位置するB区およびそれより北の過年度調査区でも奈良・平安期の住居跡は一切確認されていないことから、住居群の分布するエリアが微高地上となっており、北側が低くなっていたと考えられる。

B下の大畦畔の痕跡

B区第1面では、調査区のほぼ全域でAs-B一次堆積層がかろうじて残存していた。このような状況の中、調査区中央付近において、As-Bが堆積しない範囲が帯状に確認され、下層の黒色粘質土が露出していた。このような状況から、本来この部分が高まりになっており、畦畔が存在していた可能性がある。さらにこの範囲中には、同じ主軸方向で49号溝が開削されており、B直下のもと考えられる。このような状況から、水路を有する南北方向の大畦畔であった可能性がある。ただし、この他にはB下水田の存在を直接示すような畦畔などは確認されておらず、今後の周辺の調査による追認作業が望まれる。なお、B区北方の駅北II-1区では、大部分が擾乱に破壊されながらもB下水田の存在が確認されており、より低地を利用した水田耕作が当遺跡周辺でも行われていたことが予想される。なお、下之城遺跡群などで明らかとなっている条里制地割を基本として倉賀野エリアまで復元した場合、この大畦畔の痕跡は南北方向の条里ラインから8mほど東に位置することとなる。

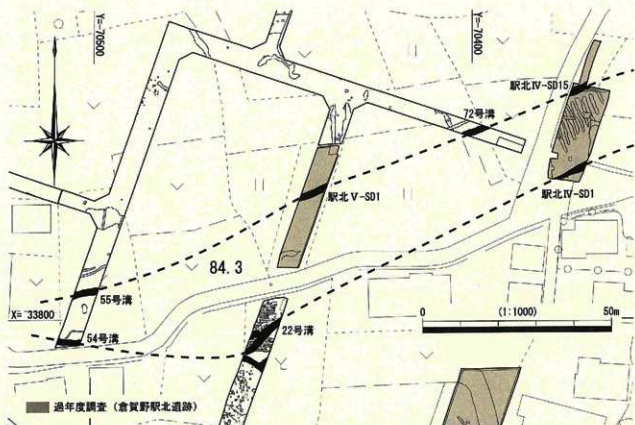
B降下以前の溝群

A区の北部およびB区第2面において、As-B降下以前に埋没したと思われる比較的大型の溝が検出された。これらの溝群は、主に南西-北東方向を指向しているようであり、主軸方向・位置関係から55号溝と72号溝は同一の遺構と考えられる。また、55号溝の南には同規模の溝である54号溝があり、主軸はおおむね東西方向だがやや南東に傾く。これに連続する遺構については現況の道路及び水路の下に存在する可能性もあるが、走行方向からA区の22号溝へと続く可能性も想定しておきたい。

以上の調査成果を過年度の調査と照らし合わせると、As-B降下以前に埋没したとされる同一の遺構であ



第 32 図 周辺遺跡遺構分布状況



第33図 B降下以前の溝分布状況

る可能性が高い溝がいくつか確認できた(第33図参照)。55・74号溝に関しては、両遺構の間に位置する倉賀野駅北V遺跡1区で確認されたSD1と、74号溝の北東に位置する倉賀野駅北IV遺跡9区のSD15が一連の溝であると考えられる。この南に並走すると考えられる54号溝に関しては、倉賀野駅北IV遺跡9区のSD1と連続する可能性があり、22号溝がその中間にあたる可能性も考えられる。少なくとも、As-B降下以前から南西～北東方向の大規模な水路が2条開削されていたことがうかがえる。

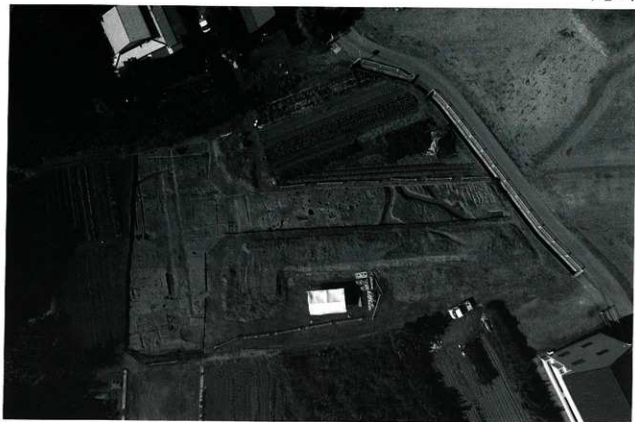
今後の課題と展望

今回の調査で、倉賀野駅北周辺における古代の状況がより鮮明となったと考える。特に微高地上に集落が分布している状況、そしてそれ以北には低地が広がり、南西～北東方向の大規模な水路が開削されていたことが明らかになった。さらに過年度調査により、本調査区の北東にはB下水田が営まれた形跡が部分的に認められている。また時代は下るが、中世の掘立柱建物跡や溝が集中するエリアがあり、特に瓦が多量に出土する溝の存在が注目される。その性格も含めて今後の検討課題である。

倉賀野駅北土地区画整理事業に伴う発掘調査は、平成24年度以降も継続して行われており、今回までの調査成果も含めて情報を蓄積・分析し、古代の倉賀野の状況がより詳細に解き明かされることが望まれる。

(参考文献)

吉田昌利他 2006『倉賀野駅北Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ遺跡』高崎市文化財調査報告書第202集 高崎市教育委員会



A区完掘状況空撮（東→）



1号竪穴住居跡完掘状況（南東→）



1号竪穴住居跡須惠器出土状況（北→）



2号竪穴住居跡完掘状況（北東→）



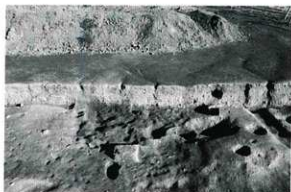
4号竪穴住居跡完掘状況（南東→）



4号竪穴住居跡遺物出土状況 (北東→)



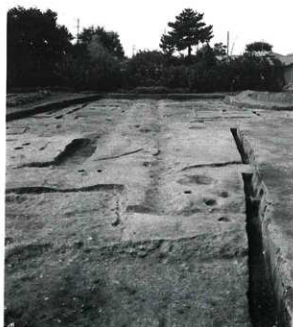
4号竪穴住居跡屋内土坑遺物出土状況 (西→)



5号竪穴住居跡発掘状況 (南→)



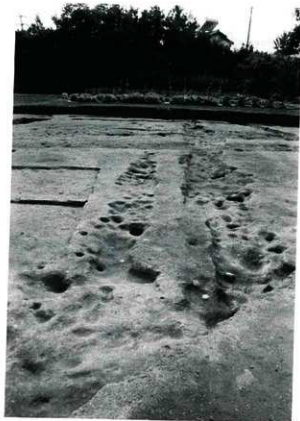
5号竪穴住居跡遺物出土状況 (南東→)



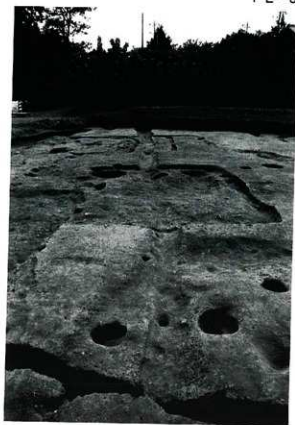
1号溝発掘状況 (東→)



3号溝発掘状況 (北東→)



5・6号溝完掘状況（北→）



14号溝完掘状況（北→）



16・18号溝完掘状況（北→）



21号溝完掘状況（東→）



22号溝完掘状況（北東→）



24号溝完掘状況（東→）



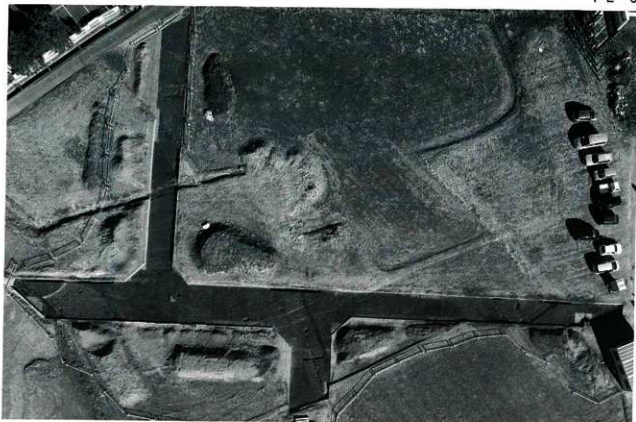
1号井戸完掘状況（東→）



1号不明遺構完掘状況（東→）



B区完掘状況空撮（東→）



C区完掘状況空撮（南→）



D区完掘状況空撮（南→）

PL-6



25号溝完掘状況(東→)



26号溝完掘状況(東→)



27～30号溝完掘状況(北東→)



31号溝完掘状況(東→)



32号溝完掘状況(東→)



41～43号溝完掘状況(北東→)



33号溝完掘状況(南→)



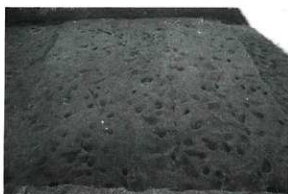
34・35号溝完掘状況(南→)



37号溝完掘状況(北→)



38号溝完掘状況(南→)



39号溝完掘状況(南→)



40号溝完掘状況(南→)



37～40号溝完掘状況(北→)

PL-8



44号溝完掘状況(東→)



45号溝完掘状況(東→)



48・49号溝完掘状況(南→)



52号溝完掘状況(南→)



53号溝完掘状況(南西→)



56号溝完掘状況(東→)



54・55号溝完掘状況(東→)



59号溝完掘状況 (南東→)



60号溝完掘状況 (南→)



57・58号溝完掘状況 (東→)



62号溝完掘状況 (北東→)



63号溝完掘状況 (北西→)



64号溝完掘状況 (南西→)

PL-10



66号溝完掘状況(南西→)



67・68号溝完掘状況(南→)



70号溝完掘状況(南東→)



71号溝完掘状況(南西→)



72号溝完掘状況(南西→)



18号溝完掘状況(東→)



19号土坑完掘状況(東→)



4号不明遺構完掘状況(南東→)



12

13



14

15

16



17

18

19



20

21



22



23



24



25



26



27



28



29



30



31



32



34



33



35



36



37



38



39



40



41



42



43



44



45



46



47



48



49



50



発掘調査報告書抄録

ふりがな	くらがのかみひごしいせき
書名	倉賀野上樋越遺跡
副書名	倉賀野駅北土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査
巻次	
シリーズ名	高崎市文化財調査報告書
シリーズ番号	第326集
編著者名	大野義人
編集機関	高崎市教育委員会
所在地	〒370-8501 群馬県高崎市高松町35番地の1
発行年月日	平成26(2014)年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		位置		調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
くらがのかみひごしいせき 倉賀野上樋越遺跡	たかざし 高崎市 くらがのまちはらび 倉賀野町字 かみひご 上樋越	10202	486 502	36° 18 '06	139° 02 '55	20100907～ 20111217	2296㎡	道路築造

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
倉賀野上樋越遺跡	集落 生産	奈良平安	竪穴住居跡、溝、土坑、 ピット	須恵器、土師器、 灰釉陶器、鉄器	
		平安以降	溝		
		中世	井戸、溝	施釉陶器、軟質陶 器	
		近世～現代	溝、火山灰処理坑	施釉陶器	

高崎市文化財調査報告書第 326 集

倉賀野上樋越遺跡

印刷日 平成 26 年 3 月 28 日

発行日 平成 26 年 3 月 31 日

編集 高崎市教育委員会 文化財保護課埋蔵文化財係

発行 高崎市教育委員会

〒370-8501 群馬県高崎市高松町 35 番地の 1

電話 027 (321) 1111

印刷 野島印刷株式会社
